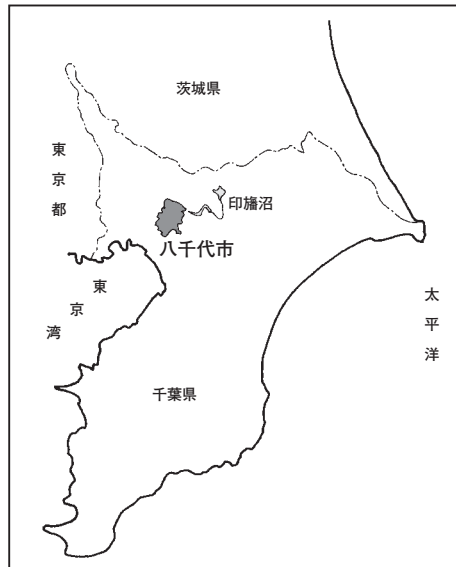


# 千葉県八千代市

## しらはたまえ 白幡前遺跡 c 地点

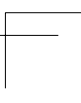
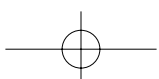
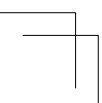
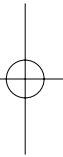
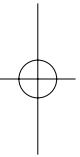
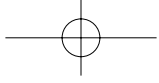
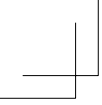
－共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－



2009

君塚克己

八千代市教育委員会



## 凡 例

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成19年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。報告書作成作業は、平成20年度事業として行った。
2. 本書に収録した発掘調査は、共同住宅建設に伴うもので、地権者である故君塚亮紀氏の委託を受けて実施した。整理事業は、君塚克己氏の委託を受けて実施した。
3. 遺跡名は、白幡前遺跡 c 地点、所在地は、千葉県八千代市萱田字上ノ台2083ほか、である。
4. 調査及び整理は、以下のとおり実施した。

確認調査 期間 平成19年10月24日～平成19年11月7日 面積 上層91㎡/894.01㎡

本調査 期間 平成20年3月6日～平成20年3月31日 面積 311㎡

本整理 期間 平成20年11月28日～平成21年3月31日




なお、確認調査は平成19年度市内遺跡調査事業として実施し、その内容は『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』に掲載した。文献一覧は、第3章末にある。

5. グリッドNo・遺構Noは、数字と記号（アルファベット）の組合せで表記した。記号は以下のとおりである。

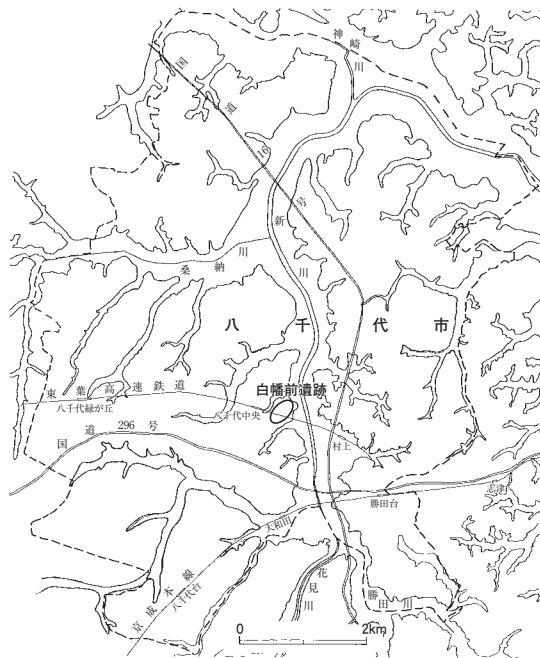
グリッド G 縦穴住居跡 D 土坑 P 溝跡 M

6. 実測図中のスクリーントーンは、以下のとおりである。

遺構：硬化面  焼土  粘土 

遺物：擦痕  内面黒色処理  須恵器 

7. 出土した遺物のほか、写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
8. 本書の図版作成は、常松成人・山下千代子が行い、遺物の写真撮影・編集・執筆は常松が担当した。



白幡前遺跡の位置

# 目次

凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	
第1章 調査経過及び概要	第2章 検出された遺構と遺物
第1節 調査に至る経緯…………… 1	第1節 奈良・平安時代…………… 6
第2節 調査の概要…………… 1	第2節 近世以降…………… 27
第3節 白幡前遺跡の概要…………… 1	第3章 成果と課題…………… 30
	第1節 奈良・平安時代…………… 30
	第2節 近世以降…………… 31
	写真図版…………… 35
	報告書抄録…………… 44

# 挿図目次

第1図 白幡前遺跡と周辺の遺跡…………… 2	第16図 2 M溝跡出土遺物実測図…………… 20
第2図 明治時代の白幡前遺跡周辺…………… 2	第17図 土坑実測図…………… 22
第3図 白幡前遺跡の各調査地点…………… 3	第18図 土坑出土遺物実測図…………… 22
第4図 白幡前遺跡 c 地点全体図…………… 5	第19図 1 M溝跡出土遺物実測図 (1) …… 23
第5図 白幡前遺跡 c 地点本調査遺構配置図 5	第20図 1 M溝跡出土遺物実測図 (2) …… 24
第6図 1 D住居跡実測図…………… 7	第21図 3 M溝跡出土遺物実測図…………… 26
第7図 1 D住居跡出土遺物実測図 (1) …… 8	第22図 4 M溝跡出土遺物実測図…………… 26
第8図 1 D住居跡出土遺物実測図 (2) …… 9	第23図 1 M溝跡実測図…………… 28
第9図 2 D住居跡実測図…………… 11	第24図 4 M溝跡実測図…………… 29
第10図 2 D住居跡出土遺物実測図…………… 12	第25図 3 M溝跡・4 M溝跡・その他の遺物実測図 29
第11図 3 D住居跡実測図…………… 14	第26図 白幡前遺跡における遺構の分布…………… 30
第12図 3 D住居跡出土遺物実測図…………… 15	第27図 鞆の羽口出土遺跡…………… 33
第13図 4 D住居跡実測図…………… 16	第28図 貝類出土古代遺跡…………… 33
第14図 4 D住居跡出土遺物実測図…………… 17	第29図 馬骨出土遺跡…………… 33
第15図 2 M溝跡実測図…………… 18	

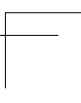
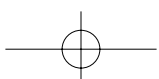
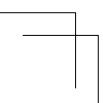
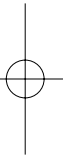
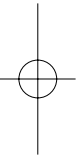
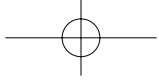
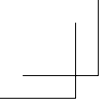
# 表目次

第1表 1 D住居跡出土遺物観察表…………… 9
第2表 2 D住居跡出土遺物観察表…………… 13
第3表 3 D住居跡出土遺物観察表…………… 15
第4表 4 D住居跡出土遺物観察表…………… 17
第5表 2 M溝跡出土貝類種名表…………… 19

第6表	2 M溝跡出土貝類計測表	19
第7表	2 M溝跡出土遺物観察表	20
第8表	土坑出土遺物観察表	22
第9表	1 M溝跡出土奈良・平安時代遺物観察表	25
第10表	3 M溝跡出土奈良・平安時代遺物観察表	26
第11表	4 M溝跡出土奈良・平安時代遺物観察表	26
第12表	3 M溝跡出土遺物観察表	29
第13表	4 M溝跡出土遺物観察表	29
第14表	その他の遺物観察表	29
第15表	八千代市内における韃の羽口出土遺跡	32
第16表	八千代市内における貝類出土古代遺跡	32
第17表	八千代市内における馬骨出土遺跡	32

## 写真図版目次

図版1	1 D住居跡, 2 D住居跡
図版2	3 D住居跡, 4 D住居跡, 2 M溝跡
図版3	2 P土坑, 5 P土坑, 4 P土坑, 6 P土坑, 7 P土坑
図版4	13 P土坑, 1 M溝跡, 調査終了状況
図版5	遺物写真(1) 1 D住居跡, 2 D住居跡
図版6	遺物写真(2) 2 D住居跡, 3 D住居跡, 4 D住居跡, 2 M溝跡
図版7	遺物写真(3) 2 M溝跡, 1 M溝跡
図版8	遺物写真(4) 1 M溝跡, 3 M溝跡, 4 M溝跡, その他



# 第1章 調査経過及び概要

## 第1節 調査に至る経緯

平成19年9月、君塚亮紀氏（以下「事業者」という。）から萱田字上ノ台の共同住宅建設事業に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は、周知の遺跡範囲内であり、現況畑地で遺物が多数散布していた。このため、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は、「確認地は周知の埋蔵文化財包蔵地ですので、文化財保護法第93条に基づく届出が必要です。当教育委員会と連絡の上協議して下さい。」という回答を同月に行い、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同月、事業者から土木工事の届が提出され、市教委は10月24日に確認調査を開始した。

**確認調査** 確認調査は、平成19年度の市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて、11月7日まで行った。対象面積894.01㎡のうち91㎡を調査し、その結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡、土坑、溝跡、近世の溝跡などを検出した。白幡前遺跡は、市内でも代表的な古代集落遺跡であり、予想どおり遺構密度は高かった。確認調査の結果については、平成20年度市内遺跡報告書（市教委2009年）に掲載した。

**本調査** 確認調査の結果、311㎡について協議範囲とした。盛土保存などを検討したが、工法に合わず、本調査を実施することとなった。協議を重ねた結果、市教委は、平成20年1月17日付けで調査の見積りを事業者に提示し、事業者から同年2月1日付けで八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出された。市は2月20日付けでこれを受託し、市・市教委・事業者の三者間で埋蔵文化財の保存措置に関する協定を締結し、311㎡について記録保存のための発掘調査を実施することを取り決めた。さらに2月29日付けで市と事業者間で委託契約を締結し、3月6日に本調査を開始した。

## 第2節 調査の概要

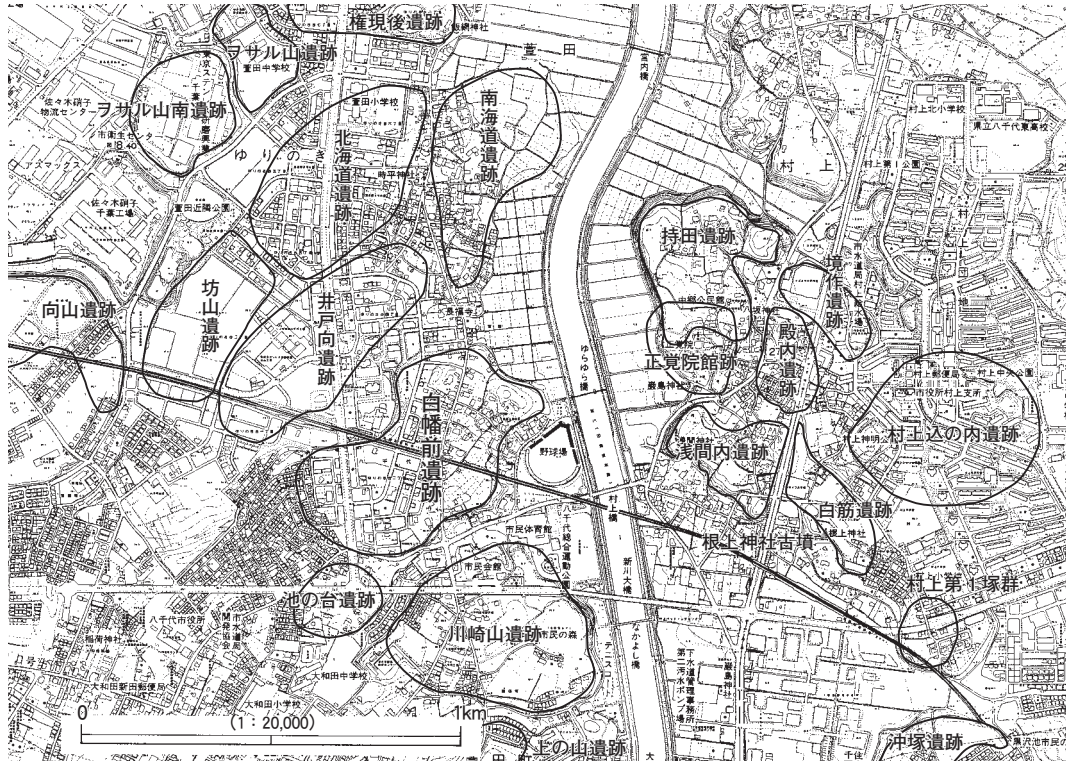
本調査は、311㎡を対象として行った。重機による表土除去後、精査を行い遺構を検出した。遺構ごとに人力にて掘削を行い、適宜写真撮影と図面作成、光波測定器によって記録をとりながら完掘をめざした。

調査経過は、3月6日機材搬入、環境整備。6日～10日重機による表土除去。7日遺構検出のための精査、遺構検出状況写真撮影。11日～12日基準点測量、杭打ち（委託作業）。11日～27日遺構調査。28日～31日重機による埋め戻し、機材撤収で調査を終了した。

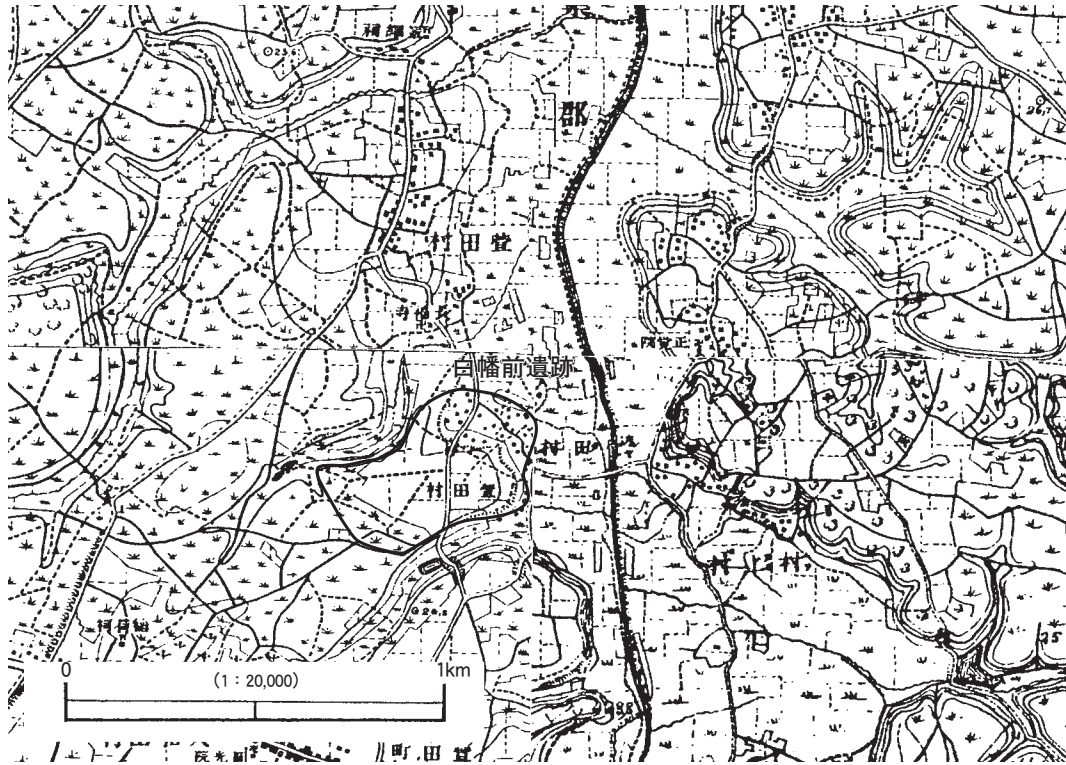
## 第3節 白幡前遺跡の概要

**遺跡の立地** 白幡前遺跡は、市域の南部中央、新川西岸の、北を寺谷津、南を池ノ谷津によって画された台地上及び低台地（千葉段丘面）上にある。標高は、12～24mである。この台地のほぼ中央には、南北に走る旧道があり、これは大和田宿から萱田の集落内を経て飯綱神社（飯綱大権現）に至る古道で、かつては「萱田道」あるいは「権現道」と呼ばれていたという（八千代市郷土歴史研究会2001年）。

**これまでの調査** 萱田地区の遺跡については、昭和50（1975）年11月～12月に萱田地区特定土地区画整理事業の一環として事前準備の遺跡分布調査が、財団法人千葉県文化財センター（以下「文化財センター」という。）によって実施され、遺跡分布状況が把握されたとのことである（文化財センター1984年）。昭和54（1979）年には、北～西を須久茂谷津、南を池ノ谷津、東を「権現道」で画された一帯が萱田遺跡とされ、白幡前遺跡の西半分が遺跡として認識された（八千代市史編さん委員会1979年）。昭和58（1983）

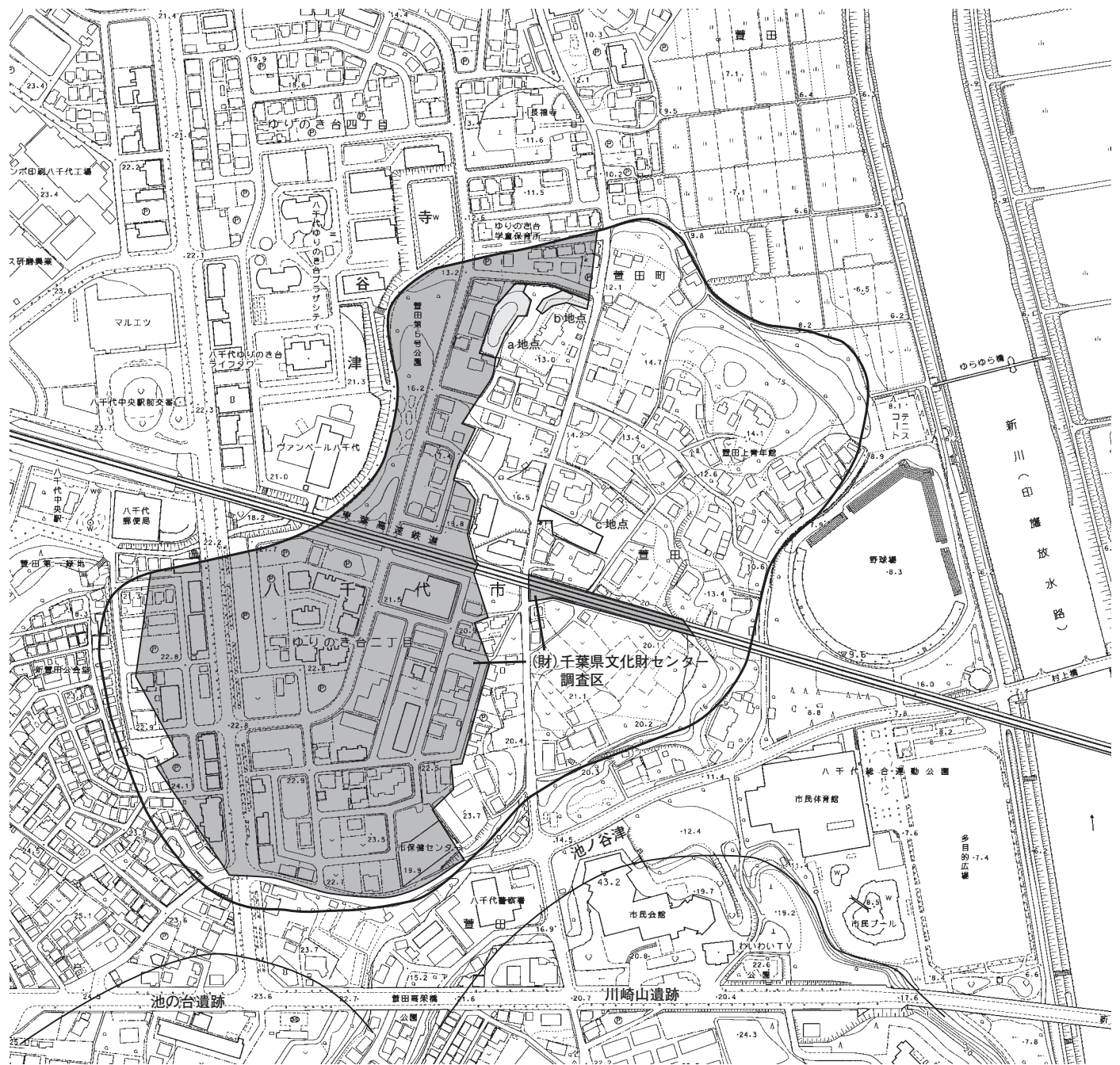


第1図 白幡前遺跡と周辺の遺跡



第2図 明治時代の白幡前遺跡周辺 明治15年迅速測図に加筆





第3図 白幡前遺跡の各調査地点 (1:5,000)

年の市教委による埋蔵文化財包蔵地所在調査報告の時には、萱田遺跡が分割され、寺谷津と池ノ谷津に挟まれた台地上で、「権現道」の西側を白幡前遺跡、東側を上上台遺跡と呼称した（市教委1983年b）。

これらと前後して、昭和54年8月から昭和63（1988）年9月まで、白幡前遺跡の94,026㎡について、萱田地区特定土地区画整理事業の実施に伴い、文化財センターが発掘調査を行った。その結果、縄文時代を除く旧石器時代～奈良・平安時代の遺構・遺物が数多く検出された。古代集落跡としては、竪穴住居跡279軒、掘立柱建物跡150棟、墨書土器や瓦塔など豊富な内容である。墨書土器の中には、人面と「文部人足召（代）」という文字が書かれたロクロ成形の土師器小型甕があり、注目された（文化財センター1991年）。

上台遺跡では、平成2（1990）年12月～翌年8月に、東葉高速鉄道の建設に伴う1,935㎡を対象とする発掘調査が文化財センターによって行われ、奈良・平安時代の竪穴住居跡17軒などが検出された（文化財センター1994年）。

平成9（1997）年、埋蔵文化財分布地図改訂の際、上台遺跡は白幡前遺跡に統合された（文化財センター1997年）。

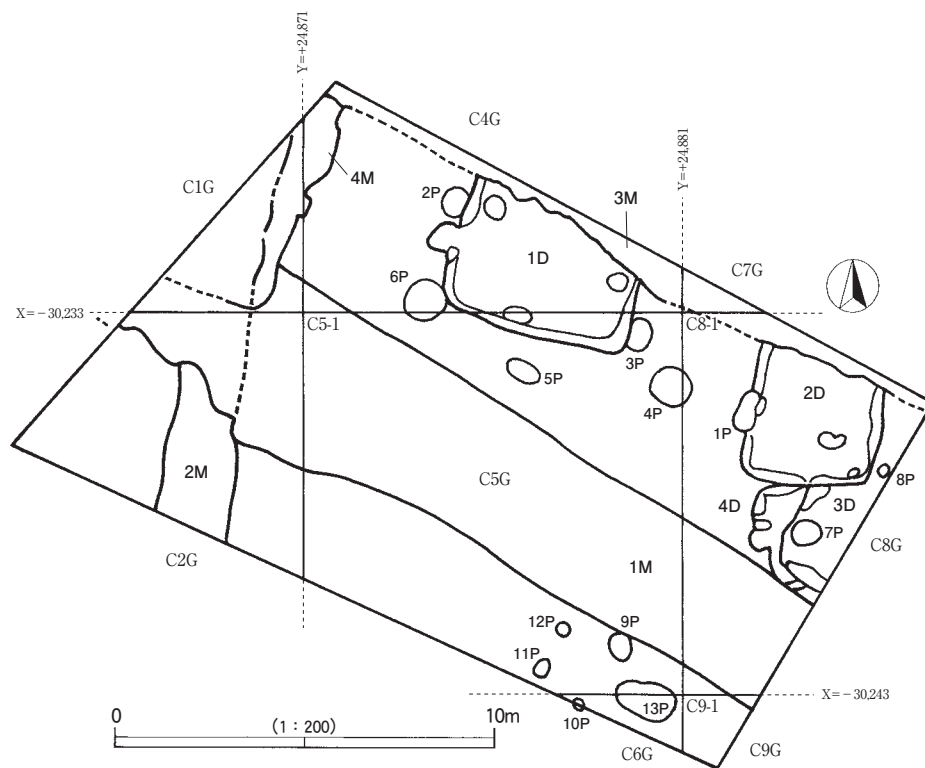
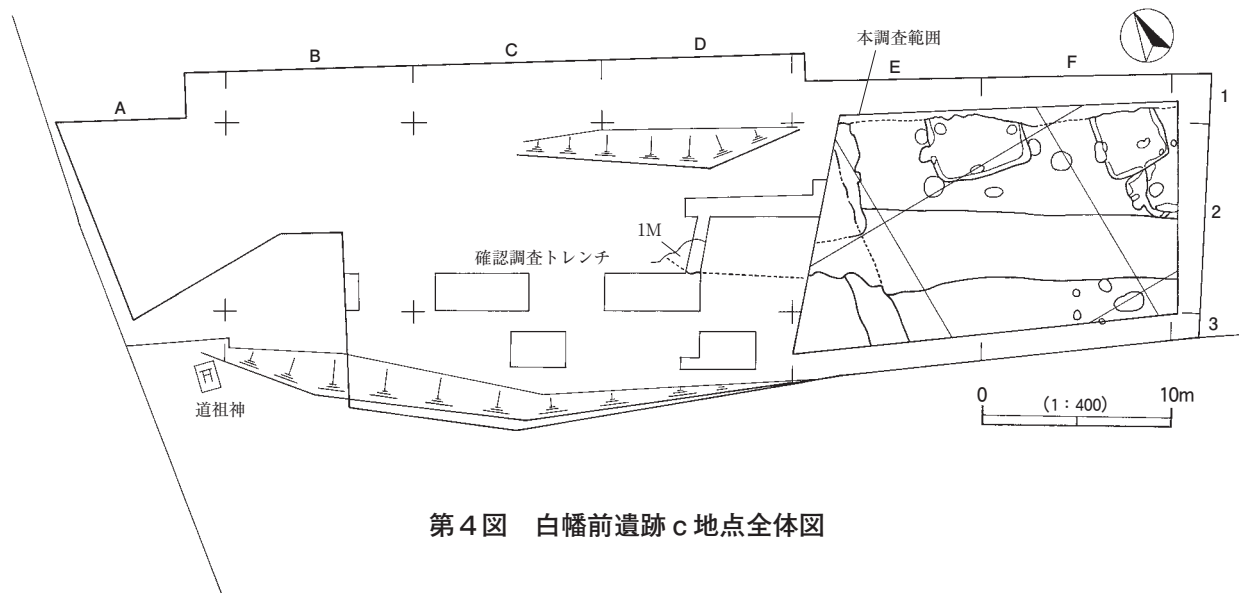
平成13（2001）年には、遺跡北部で市教委によってa地点1,498㎡、b地点214㎡の調査が行われ、奈良・平安時代の竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡6棟などが検出された（市教委2003年）。

今回のc地点は、遺跡の中央やや北東寄りの標高16～19mの畑地である。地表面には、土師器・須恵器などの破片が多数散布していた。

**周辺の遺跡** 萱田地区遺跡群は、萱田地区特定土地区画整理事業に伴う大規模調査で、本遺跡のほかその北に所在する権現後遺跡・ヲサル山遺跡・北海道遺跡・坊山遺跡・井戸向遺跡が調査され、旧石器時代から中世に至る遺構・遺物が明らかにされている。奈良・平安時代の竪穴住居跡に限って見ると、権現後69軒・ヲサル山2軒・北海道116軒・坊山1軒・井戸向103軒で白幡前の279軒を加えて570軒に上る。これらの調査成果を受けて土師器・須恵器の編年研究や墨書土器研究、古代集落研究などが展開されている。本遺跡の南には、弥生時代後期～古墳時代中期を主体とする川崎山遺跡があり、東方の新川を隔てた村上地区には、村上込の内遺跡や浅間内遺跡を始めとする村上地区遺跡群が所在する。新川上流及び辺田前・沖塚前低地に臨むこの一帯は、遺跡の密集地帯として認識される。



調査風景（後方はゆりのき台の高層建築）



## 第2章 検出された遺構と遺物

### 第1節 奈良・平安時代

本遺跡の主体を成す時代である。竪穴住居跡4軒、溝跡1条、土坑12基を検出した。なお、本地点の最古段階と考えられる遺構4D住居跡と2M溝跡は、古墳時代後期にさかのぼる可能性もあるが、確証は無く、本節で報告する。

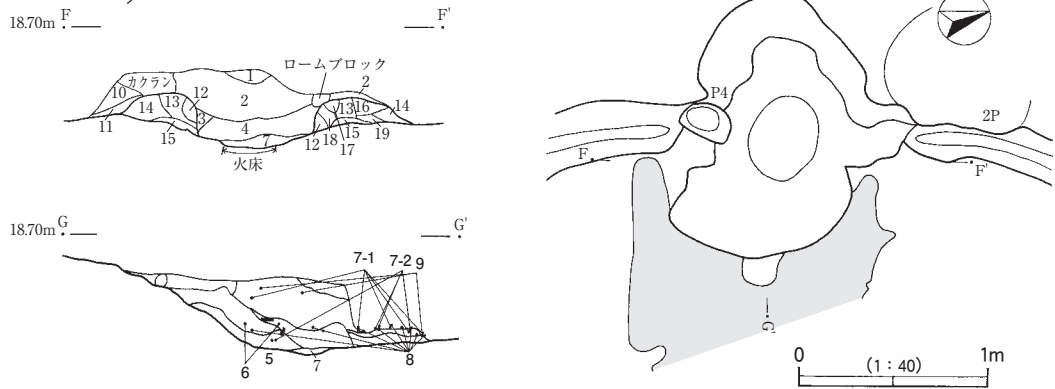
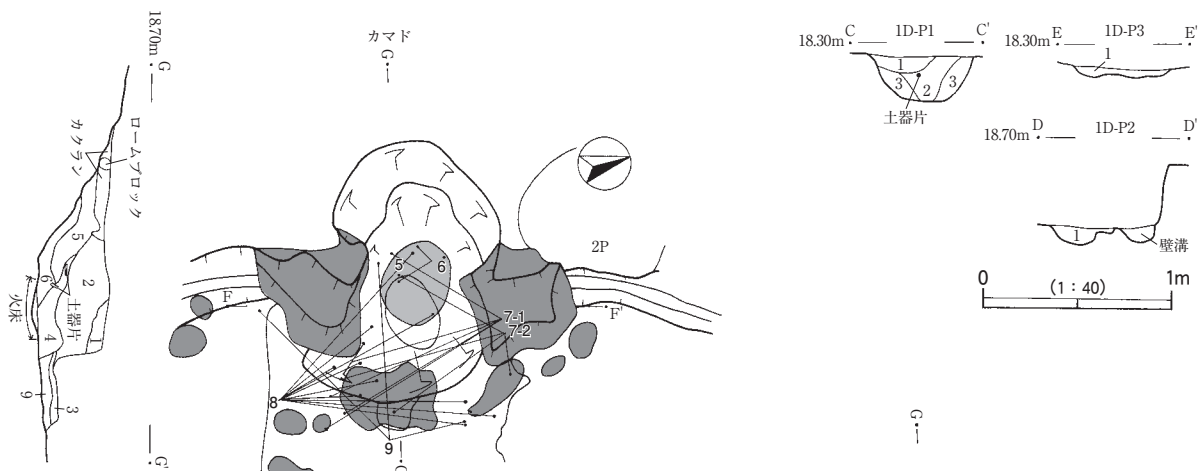
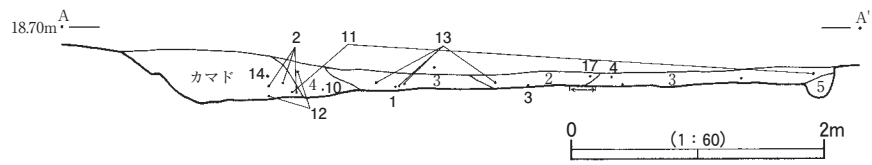
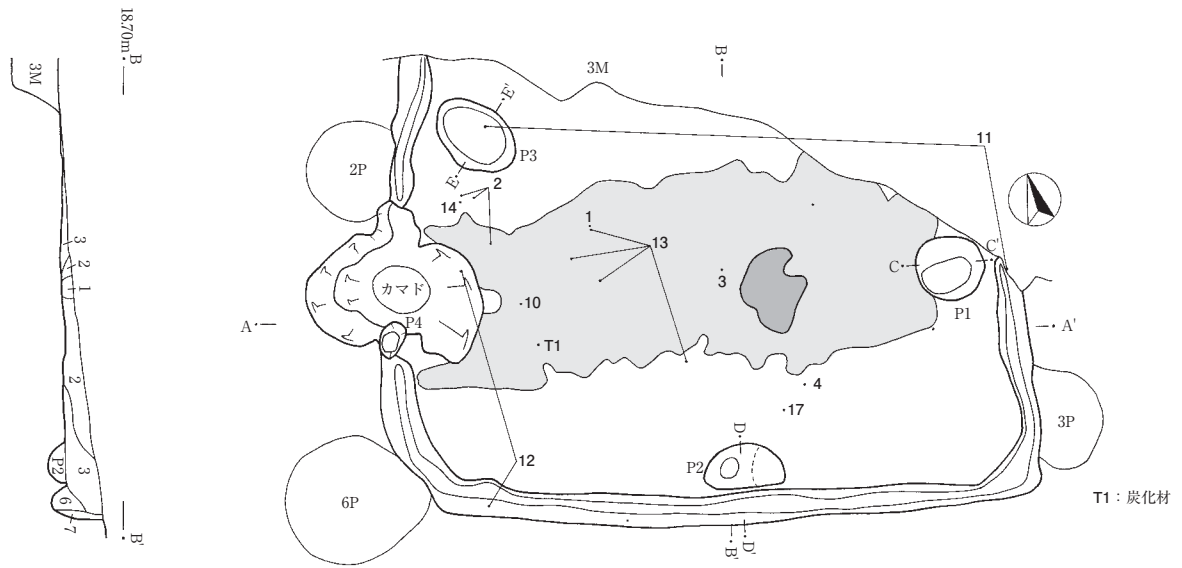
#### 1 竪穴住居跡

**1D住居跡** (第6図～8図) **位置** C4G～C5G。**平面形態** 方形。3M溝跡に切られ、2/3残存。2P土坑・3P土坑を切る。6P土坑と接する。規模 北西-南東方向5.15m、北東-南西方向残存3.6m。深さ10～40cm。**覆土** 2・3・5・6・7には径5mm以下の黄色スコリアを多く含む。1:7.5YR3/3 (暗褐色土)。径10mm以下の焼土粒子・ブロックをまばらに含む。径3mm以下の黄色スコリアを多く含む。2:7.5YR3/3 (暗褐色土)。3:7.5YR3/3 (暗褐色土)。径5cm以下のロームブロックをまばらに含む。4:7.5YR3/3 (暗褐色土), 7.5YR6/6 (橙色粘土)。カマドの粘土を含む。焼土粒子・炭化材片含む。5:7.5YR3/3 (暗褐色土), 7.5YR4/3 (褐色土)。6:7.5YR3/3 (暗褐色土), 7.5YR4/3 (褐色土)。7:7.5YR4/3・4/4 (褐色土)。明瞭。ローム混じり。**壁面** 垂直で明瞭。ソフトローム～ハードロームの層界から成る。**床面** 平坦で極めて堅い硬化面が中央に広がる。焼けて赤化した箇所がある。**壁溝** カマド部分を除いて全周する。**カマド** 北西壁に1基。やや南に寄っている。カマドの粘土が周辺に散在していた。赤化した火床が認められた。煙道部の外への張り出しは60cm。カマド覆土 粘土には砂が含まれる。1:7.5YR5/4 (にぶい褐色粘土)。2:7.5YR3/3 (暗褐色土)。黄色スコリア・炭化粒子・径2cmのロームブロックを含む。3:2.5YR3/4 (暗赤褐色焼土)。焼土粒子多量含む。4:2.5YR3/4 (暗赤褐色焼土)。5:2.5YR4/4 (にぶい赤褐色焼土)。焼土粒子多量含む。6:2.5YR3/4 (暗赤褐色焼土)。焼土粒子多量含む。7:全掘時の掘り広がり。火床の上に当たる。焼土混じりの脆弱な土。8:7.5YR6/3 (にぶい褐色粘土)。9:7.5YR3/2 (黒褐色土)。10:7.5YR3/3 (暗褐色土)。11:7.5YR3/3 (暗褐色土)。粘土混じり。以下カマドの袖 12:2.5YR3/6 (暗赤褐色焼土)と7.5YR6/6 (橙色粘土)が混じり合う。焼土主体、炭化材片含む。13:7.5YR6/6 (橙色粘土)。袖の中心部分。14:7.5YR6/6 (橙色粘土)主体、7.5YR4/2 (灰褐色土)含む。15:7.5YR4/6 (褐色ローム), 7.5YR4/3 (褐色土)。カマドの基盤。16:7.5YR4/2 (灰褐色土)。粘土と褐色土が混じり合う。17:7.5YR3/3 (暗褐色土)。18:7.5YR5/3 (にぶい褐色粘土)。焼土粒子含む。19:7.5YR6/6 (橙色粘土)と7.5YR3/3 (暗褐色土)が混じり合う。**出入口** P1が相当か。覆土1:7.5YR3/2 (黒褐色土)。黄色スコリア少量。2:7.5YR3/3 (暗褐色土)。3:7.5YR4/3 (褐色土), 7.5YR3/3 (暗褐色土)。規模54×50cm、深さ23cm。**その他のピット** P2は、覆土1:7.5YR3/2 (黒褐色土)。ロームブロック・黄色スコリア少量。規模34×30cm、深さ9cm。P3は、覆土1:7.5YR3/2 (黒褐色土)。焼土粒子・炭化粒子・径3cmのロームブロックを含む。規模72×50cm、深さ3～6cmと窪み状。P4は、カマドの袖の下から検出した。覆土は脆弱だった。28×18cm、深さ26cm。

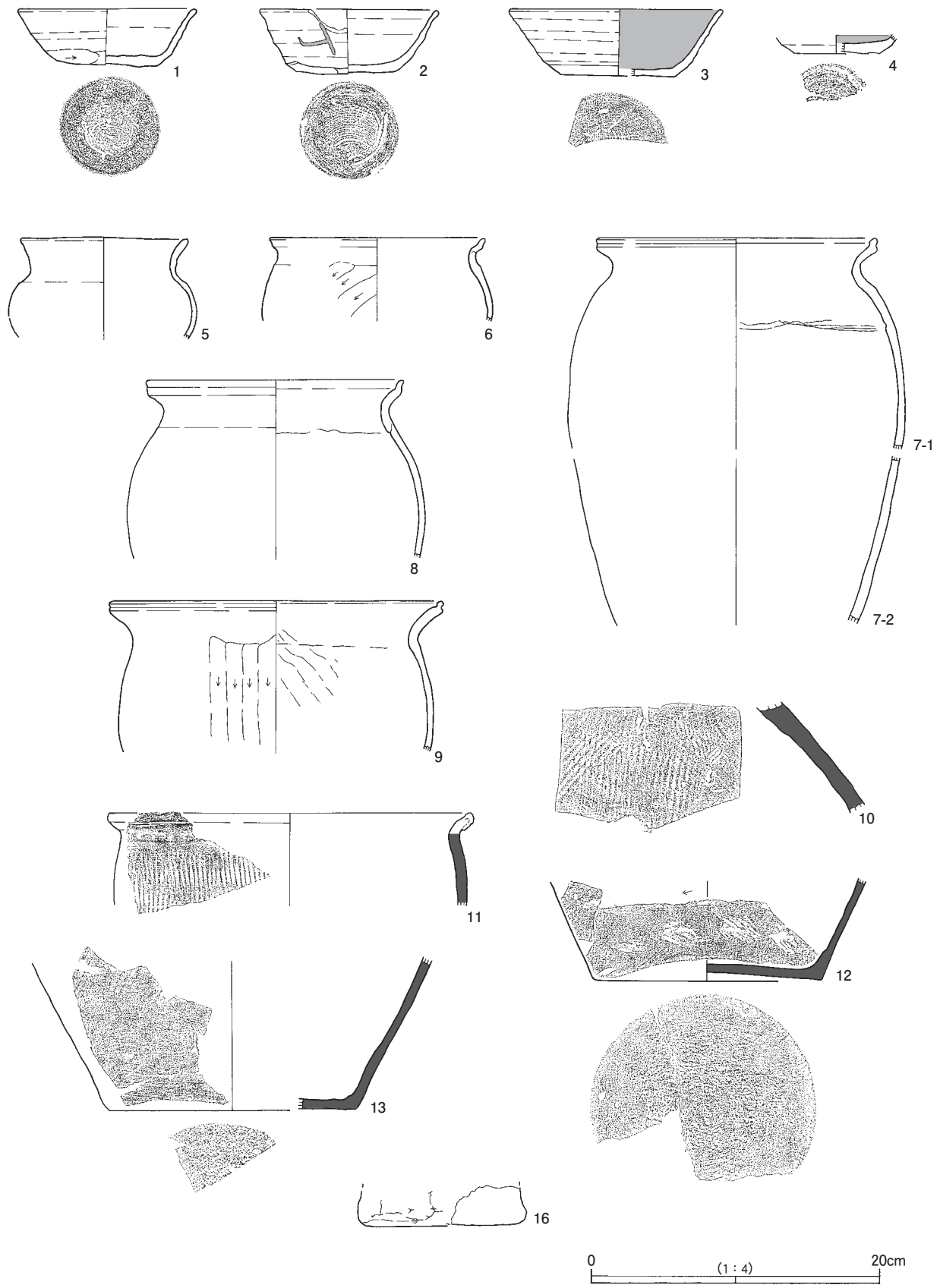
**出土遺物** カマド周辺を中心に出土した。特に土師器甕の主なものは、すべてカマド内と周辺の出土。

総数160点出土。内訳は、土師器坏30点、土師器甕45点、須恵器坏3点、須恵器甕14点、土器片円盤2点、支脚片2点、鉄製品2点、その他土器62点。これらのうち土師器坏4点、同甕5点、須恵器甕4点、土器片円盤2点、支脚1点、釘1点を図示した。

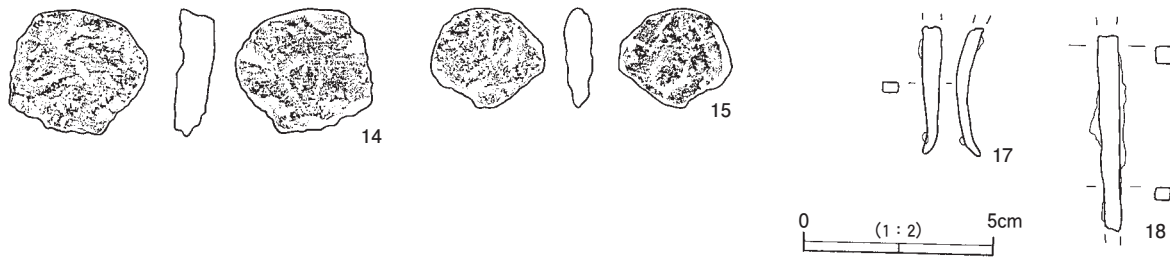
1・2の坏は、藤岡孝司氏の分類(藤岡1987年)による土師器坏形土器のⅦa類に近いものである。



第6図 1D住居跡実測図



第7図 1D住居跡出土遺物実測図(1)



第8図 1D住居跡出土遺物実測図(2)

第1表 1D住居跡出土遺物観察表

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	胎土 器表 色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	1	環	3/4 口~底部	高さ4.1 口径12.5 底径6.8	○雲母細片, 赤褐色粒子, 細砂, 粗砂 ◎やや脆い ●外) 淡褐色, 橙褐色, 灰褐色 内) 淡褐色, 灰褐色	ロクロ成形 外) 体部下端へら削り 底外) 回転糸切痕, 周縁へら削り 内) ナデ, 底面剥離	
2	2, 39, 57	環	3/4 口~底部	高さ4.65 口径12.6 底径6.9	○粗砂, 雲母細片, 褐色粒子 ◎やや脆い ●外) 橙色, 淡赤褐色 内) 淡褐色, 橙色	ロクロ成形 外) 墨書あり, 体部下端へら削り 底外) 回転糸切痕, 周縁へら削り 内) 横方向ナデ	
3	11	環	1/3 口~底部	高さ4.75 口径15.0 復元底径8.0	○細砂, 褐色粒子 ○良 ●外) 黒色, 暗褐色 内) 黒色 (内面黒色処理)	ロクロ成形, ロクロ目弱い 外) 体部下端へら削り。底外) 回転糸切痕, 周縁へら削り 内) ミガキ	
4	25	環	底部 高台の痕跡	復元底径6.0	○粗砂 ○良 ●外) 暗褐色, 褐色, 橙色 内) 黒色 (内面黒色処理)	ロクロ成形 底外) 高台の痕跡 内) ミガキ	
5	105, カマドSP3-4	小型甕	口~胴部	残存高7.1 口径11.7~12.2 頸部径10.1 胴部最大径13.2	○粗砂, 細礫, 赤褐色粒子 ○脆い ●外) 淡橙褐色, 黒褐色, 白色付着物 内) 淡橙褐色, 褐色, 暗褐色	横方向ナデ, 剥離箇所あり 煮炊きに使われたのであろう	
6	102, 100, カマド付近一括	小型甕	口~胴上部	残存高5.8 復元口径15.0 復元頸部径13.8 復元最大径16.0	○粗砂, 細礫 ◎やや脆い ●外) 褐色, 褐色 内) 灰褐色, 赤褐色	口唇部つまみ出し外反 外) 頸部以上は横方向ナデ, 輪積痕あり 頸部以下はへら削り, 剥離 内) 横方向ナデ	
7-1	69, 68, 70, 72, 91 カマド付近一括	甕	口~胴部	残存高27.0 復元口径19.6 復元頸部径17.4 復元最大径23.6	○雲母片, 長石, 石英の粗砂, 細礫 ◎脆い ●外) 灰黒色, 灰褐色, 灰白色 内) 暗褐色, 褐色	口唇部つまみ出しほぼ直立 外) 横方向ナデ, 付着物あり, 肌荒れ状 内) ナデ, 沈線状の調整痕あり, 剥離	
7-2	60, 62, 67, 105	甕	胴下部		○雲母片少ない ◎脆い ●外) 暗褐色, 褐色, 赤褐色 内) 灰白色, 淡褐色		
8	71, 58, 65, 56, 101, 75, 64, 78, 34 82,105も同一か	甕	口~胴部	残存高12.4 復元口径18.2 復元頸部径15.8 復元最大径20.8	○雲母片, 石英・長石の細礫多量 ◎脆い ●外) 淡褐色, 灰黒色, 淡褐色 内) 褐色, 淡褐色, 灰褐色	口唇部つまみ出しやや外反 外) 頸部以上は横方向ナデ, 以下ナデ (指紋あり) 内) 横方向ナデ, 輪積痕 付着物あり, 使用の痕跡あり	
9	56, 13, 95 E2-3~F2-1住覆土	甕	口~胴部	残存高10.5 復元口径23.4 復元頸部径20.0 復元最大径22.0	○粗砂, 細礫, 石英・長石, 赤褐色粒子少量 雲母少量 ○良 ●外) 褐色, 灰黒色, 灰白色 内) 褐色, 淡褐色, 黒色	口唇部つまみ出しやや外反 外) 頸部以上は横方向ナデ, 以下縦方向へら削り 内) 頸部以上横方向ナデ, 以下斜方向ナデ	

須恵器

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	胎土 器表 色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
10	55	甕	胴上か 破片	厚さ1~1.4	○長石, 細礫, 粗砂 ○良 ●灰色	外) 叩き目 内) ナデ 重厚な作り	
11	6 33	甕	口縁	復元口径25.6 復元頸部径23.6	○細砂, 粗砂少 ○良 ●黒褐色, 暗褐色	外) 口縁は横方向ナデ, 頸部以下は叩き目 内) 横方向ナデ	
12	14, 77, E2-3住	甕	底部	底径15.9	○雲母片, 粗砂 ○良 ●外) 黒色 底外) 灰褐色 内) 灰色	外) 横~斜方向へら削り, 叩き目わずかに残る 内) 横方向ナデ, ミガキ	
13	5, 3, 22, 1, 一括	甕	胴~底部	残存高10.6 復元底径17.4	○粗砂, 赤褐色粒子, 長石, 細礫 ○良 ●外) 灰褐色, 褐色 内) 灰色	外) 叩き目, 斜方向へら削り 底外) 肌荒れ状態 内) 横方向ナデ	

土製品

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	胎土 器表 色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
14	7	甕	土器片円盤 底部	38×35×厚さ9 重さ11.6g	○粗砂, 石英細礫 ○良 ●淡赤褐色	土師器, 一部に器面残る	
15	F2-3 I層	甕	土器片円盤 底部	30×26×厚さ7 重さ5.5g	○細砂, 粗砂 ○良 ●褐色, 灰褐色, 暗灰色	土師器	
16	F2-3住	支脚	底部	復元底径118 重さ58.7g	○粗砂少 ○脆い ●灰褐色, 暗赤褐色	亀裂に富む	

鉄製品

No	現地取上げNo	器種	状態・部位	計測値	最大長×最大幅×最大厚(mm)	重さ(g)	特徴	その他
17	35	釘	先端部	34×5×4		1.5	断面方形	
18	一括	釘か	両端欠損	51.5×5.5×4.5		6.4	断面方形	

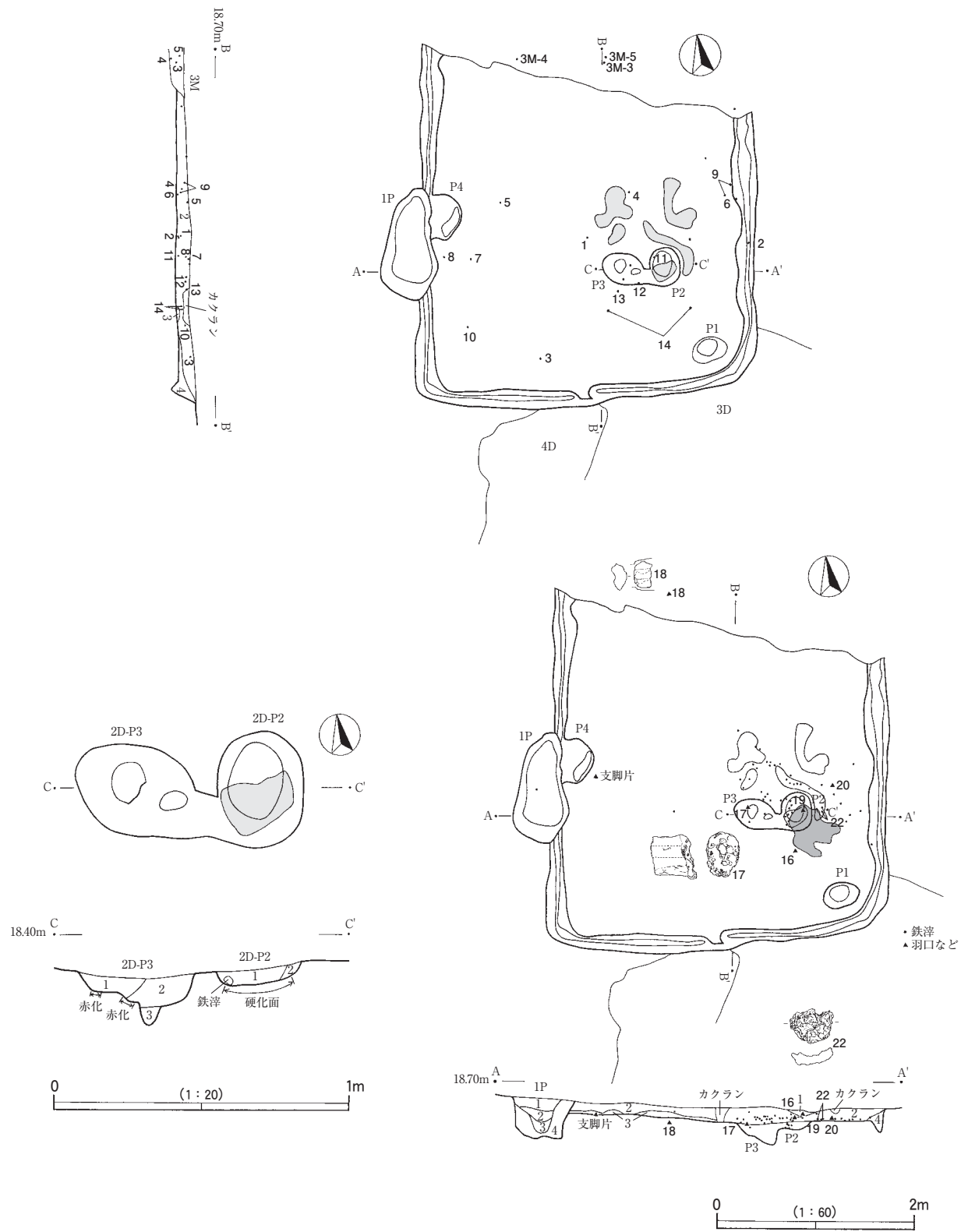
2の墨書は、「丁」の横位かあるいは「入」であろう。「入」は上の台遺跡調査で多く出土している。土師器が87%を占め、須恵器は10.6%に留まる。土師器坏に内黒がある。皿は認められない。これらの状況から、藤岡氏の「萱田編年」(藤岡1990年)の萱田Ⅳ期(9世紀第1四半期)に属するものと想定する。

**2D住居跡**(第9図~10図) **位置** C 8G。**平面形態** 方形。3/4残存。3M溝跡・1P土坑に切られる。3D住居跡・4D住居跡を切る。**規模** 南北方向残存3.5m, 東西方向3.4m。深さ10~16cm。**覆土** 1:2.5YR3/6(暗赤褐色焼土)。2:7.5YR3/3(暗褐色土)。径5mm以下の黄色スコリアを多く、焼土粒子・炭化材小片まばらに含む。3:7.5YR4/4(褐色土)・3/3(暗褐色土)。径2~3cmロームブロック含む。4:7.5YR3/3(暗褐色土)・4/3・4/4(褐色土)。ローム混じり。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。ソフトローム・ハードロームから成る。**床面** 凹凸があり、特に3M側が激しい。貼り床が認められ、ロームブロック・ソフトローム・暗褐色土・褐色土から成る。硬化面はP2・P3周辺に認められる。**壁溝** 南壁中央付近では途切れるが、ほぼ全周する。**小鍛冶遺構** 2Dは、小鍛冶の工房跡の可能性もある。その中心部がP2・P3で、ここを中心に鉄滓が分布し、P3上に鞆の羽口が出土している。P2底面には硬化面、P3底面には焼けてわずかに赤化した箇所がある。住居の硬化面もP2・P3周辺にあり、P2・P3上の住居覆土には焼土が認められた。以上により作業の中心部であったことが想定できる。P2覆土1:7.5YR3/3(暗褐色土)。径2mm以下の黄色スコリア・炭化材片・鉄滓を含む。焼土粒子少量含む。2:7.5YR3/3(暗褐色土)・4/3(褐色土)。ローム混じり。P3覆土1:7.5YR3/3(暗褐色土)。しまり弱い。鉄滓・ロームブロック・焼土粒子・炭化材片を含む。2:7.5YR3/4(暗褐色土)・4/3(褐色土)。1よりしまる。ロームブロック・黄色スコリアを含む。3:7.5YR3/3(暗褐色土)・4/3(褐色土)。P2・P3の覆土は持ち帰り篩にかけた。その結果、P2覆土から141.4g、P3覆土から27.9gの鉄滓が得られた。**その他のピット** P1:36×25cm, 深さ13cm。P4:45×30cm, 深さ15cm。1P土坑に切られる。

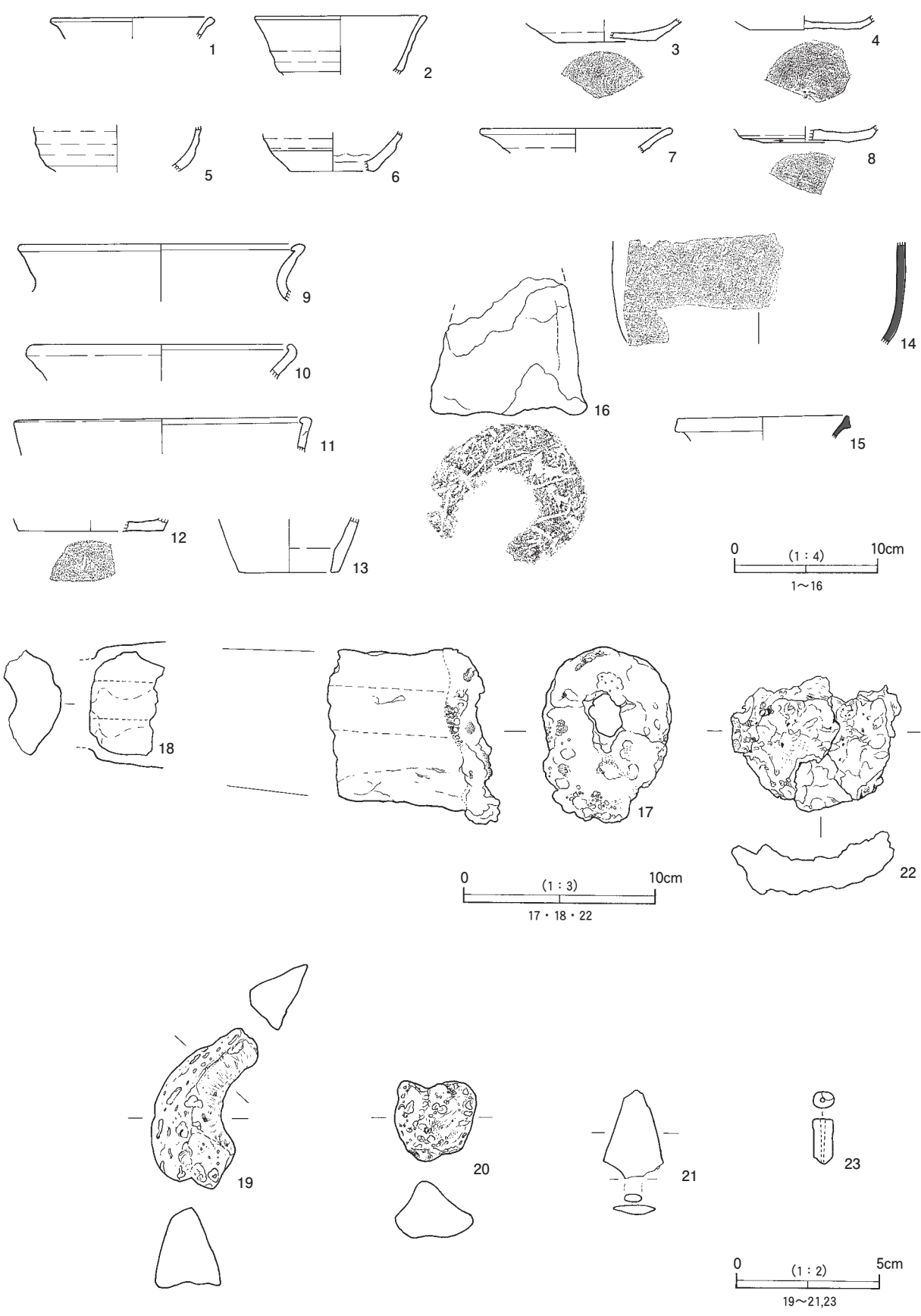
**出土遺物** 土器は小片がほとんどである。150点出土。内訳は、土師器坏51点、土師器甕78点、土師器甗1点、須恵器壺1点、須恵器甕6点、その他土器類6点、鞆羽口2点、高師小僧1点、支脚2点、軽石2点。この他に鉄製品2点、鉄滓156点以上1,280.2g分と焼成粘土塊17点がある。これらのうち、土師器坏8点、同甕6点、同甗1点、須恵器壺1点、同甕1点、高師小僧(管玉状)1点、支脚1点、鞆羽口2点、軽石2点、鉄製品(鏃か)1点、碗形滓1点を図示した。

土師器が87%を占め、須恵器は4.5%に留まる。土師器甕9~11の口唇部つまみ出しは内傾しており、藤岡氏の「萱田編年」の萱田Ⅷ期(10世紀第1四半期)に属する。しかし土師器坏の口径は復元値11.6~12.0cmと小さく、Ⅷ期の典型ではない。概ねⅦ~Ⅷ期と想定しておきたい。





第9図 2D住居跡実測図



第10图 2D住居跡出土遺物実測図

第2表 2D住居跡出土遺物観察表

土師器

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	18	坏	口縁部小片	復元口径11.6	○粗砂 ○良 ●褐色, 暗褐色	ロクロ成形 ナデ	
2	26	坏	口縁部小片	残存高4.1 復元口径12.0	○細砂 ○良 ●外) 暗褐色, 黒褐色, 赤褐色 内) 褐色, 暗褐色	ロクロ成形。 外) 体部下端へら削り 内) ナデ, ミガキ	
3	7	皿	底部	復元底径7.2	○粗砂 ○良 ●褐色, 暗褐色, 黒褐色	ロクロ成形 外) ロクロ目 底外) 糸切痕 内) ナデ	
4	80	坏	底部	復元底径7.8	○雲母細片, 細砂 ○良 ●外) 暗褐色, 褐色 内) 赤褐色, 暗褐色	ロクロ成形 底外) へら削り 内) ナデ	
5	13	坏	体下部小片	残存高3.2 復元上端径11.6	○粗砂, 赤褐色粒子 ○良 ●褐色	ロクロ成形 外) ロクロ目, 体部下端へら削り 内) ナデ	
6	34	坏	体下部～ 底部小片	復元底径6.0	○粗砂 ○良 ●外) 淡褐色 内) 淡褐色, 黒色	ロクロ成形 外) 体部下端へら削り 内) 墨痕か	
7	85	皿	口縁部	復元口径13.5	○粗砂 ○良 ●外) 暗褐色, 暗赤褐色 内) 暗褐色	ロクロ成形 外) ロクロ目, ナデ 内) ナデ, ミガキ	
8	84	皿	底部	復元底径6.2	○粗砂 ○良 ●外) 暗褐色, 褐色 内) 灰褐色, 黒色	ロクロ成形 外) 体部下端へら削り 底外) へら削り 内) ナデ	
9	32, 33	甕	口～頸部	復元口径20.0 復元頸部径17.5	○粗砂 ○良 ●外) 褐色, 橙褐色 内) 暗灰褐色, 橙色	口唇部つまみ出し内傾 横方向ナデ	
10	111	甕	口縁部小片	復元口径19.0	○細砂 ○良 ●外) 淡橙褐色 内) 淡橙色	口唇部つまみ出し内傾 横方向ナデ	
11	75	甕	口縁部小片	復元口径20.8	○粗砂 ○やや脆い ●暗褐色, 褐色	口唇部つまみ出し内傾 外) 横方向ナデ 内) 横方向ナデ, 剥離	
12	22	甕	底部小片	復元底径10.2	○粗砂 ○良 ●外) 橙褐色 底外) 灰白色 内) 灰色, 灰 黒色	ロクロ成形 外) へら削り 底外) 糸切痕 内) ナデ	
13	20	甕	底縁部	復元底径7.0 復元口径23.4	○粗砂, 赤褐色粒子 ○良 ●淡赤褐色	外) 横方向へら削り 内) 横方向ナデ	

須恵器

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
14	53, 88	甕	胴部	復元上端径20.4	○粗砂 ○良 ●外) 灰色, 黒色 内) 灰白色	外) へら削り, ミガキ, 叩き目を消したもの か 内) ナデ	
15	一括	壺	口縁	復元口径12.0	○緻密 ○良 ●灰白色	ロクロ成形, ナデ	

土製品

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
16	54	支脚	下半	残存高95 110×101 重さ744.1g	○粗砂少量 ○脆い ●外) 灰白色, 淡橙褐色, 淡褐色, 淡灰褐色 底外) 橙褐色 割口) 橙色	外) ナデ 底外) 木葉痕	
17	108	輪の羽口	基部	径67×84, 残存高85 孔径21～24 重さ345.9g	○緻密さに欠け, 表面に多数の穴 ○脆い ●外) 灰色, 淡褐色, 黒色 割口) 橙色	鉄滓付着	
18	15	輪の羽口	先端付近	復元径64, 最大厚24 重さ33.1g	○粗砂少量 ○脆い ●外) 黒褐色, 褐色 割口) 黒色, 赤褐色	テール状鉄滓付着	3 M 出土 だが 2 D からの 流入

石製品

No	現地取上げNo	器種	状態・部位	計測値	最大長×最大幅×最大厚(mm)	重さ(g)	特 徴	その他
19	74	砥石		57×31×29		4.9	磨り面あり, 白色系軽石	
20	73	砥石		28×27×19.5		1.5	磨り面あり, 白色系軽石	

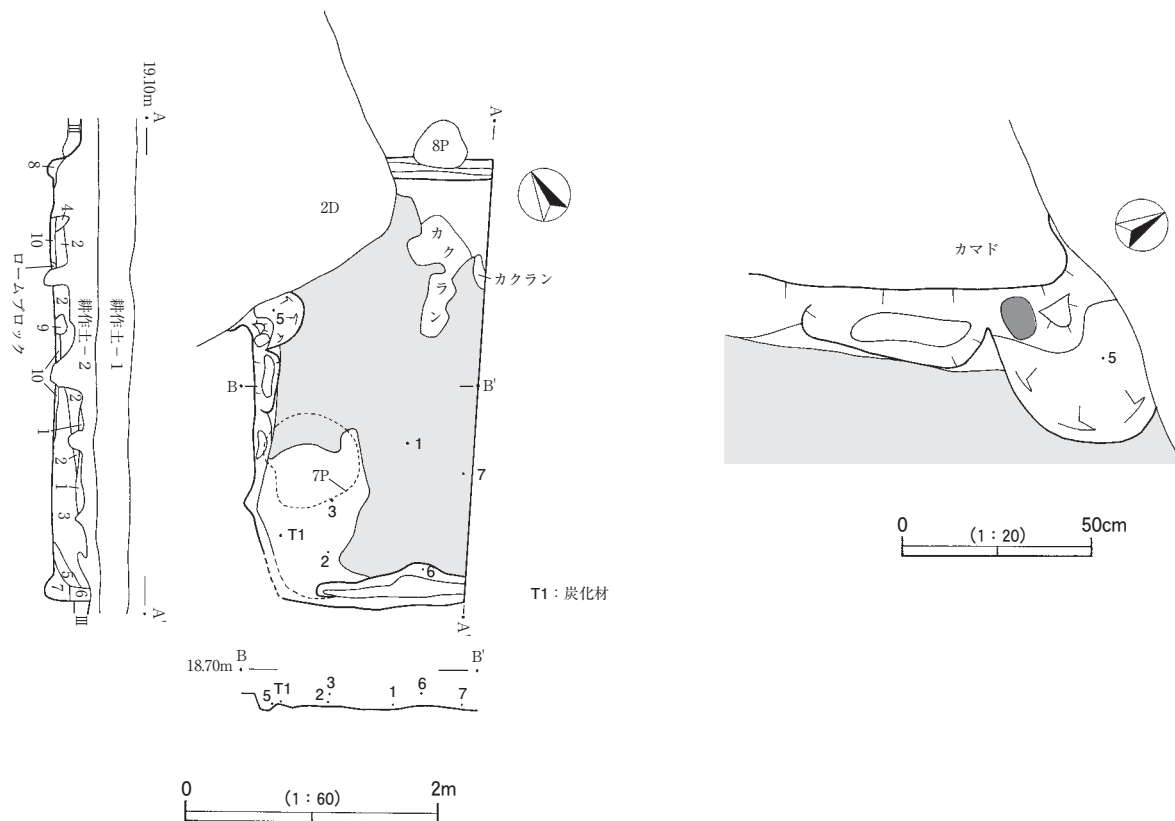
鉄製品等

No	現地取上げNo	器種	状態・部位	計測値	最大長×最大幅×最大厚(mm)	重さ(g)	特 徴	その他
21	P 3内一括	鎌か	刀部	30×21×3		3.5		
22	61, 62, 63	碗型滓	2 / 3	91×残存71×26		194.7		
23	一括	高師小僧	一部欠損	15.5×7.5×6.5		0.7	黄褐色, 橙褐色 管玉状	

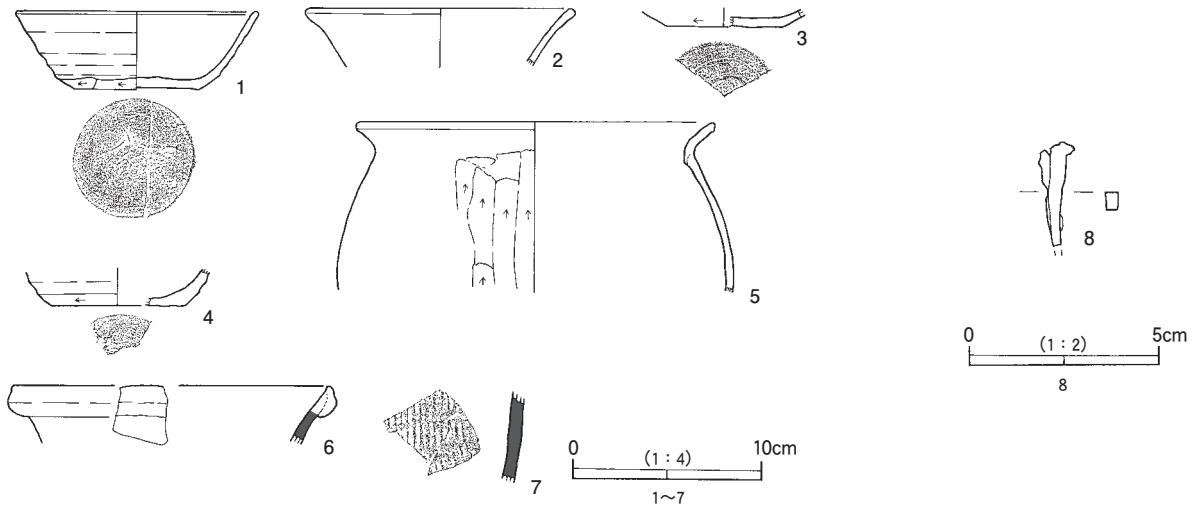
**3 D住居跡** (第11図~12図) **位置** C 8 G。**平面形態** 方形。調査区域外に及ぶ。1 / 2を調査した。2 D住居跡・8 P土坑に切られる。4 D住居跡を切る。**規模** 北西-南東方向残存1.8m, 北東-南西3.56m。深さ10~29cm。**覆土** 耕作土1 : 7.5YR 3 / 3 (暗褐色土)・4 / 2 (灰褐色土)。屑粒状の部分あり, 可塑性0, 径5 mm以下黄色スコリアを均一に含む。焼土粒子・炭化材片を含む。耕作土2 : 耕作土1と同様だが, 可塑性0~弱, 径1 cmロームブロックを含む。1 : 7.5YR 3 / 3 (暗褐色土)。上の層と明瞭に分かれる。径2~5 mm黄色スコリアを含む。2 : 7.5YR 3 / 3 (暗褐色土)・3 / 2.5 (暗褐色~黒褐色土)。1より緻密。径2 mm以下黄色スコリアをまばらに含む。3 : 7.5YR 3 / 3 (暗褐色土)。径3 cm以下ロームブロック・径3 mm以下黄色スコリアを多く含む。4 : 7.5YR 3 / 3 (暗褐色土)・4 / 3 (褐色土)。径2 mm以下黄色スコリアを含む。5 : 7.5YR 3 / 3 (暗褐色土)。径2 mm以下黄色スコリアを含む。6 : 7.5YR 4 / 3・4 / 6 (褐色土)。ロームを多く含む。7 : 7.5YR 3 / 3 (暗褐色土)・4 / 3 (褐色土)。ロームを含む。径3 cmロームブロックを含む。8 : 7.5YR 3 / 3 (暗褐色土)・4 / 3・4 / 4 (褐色土)。ロームを含む。径5 mm以下黄色スコリアを含む。9 : 7.5YR 6 / 4 (にぶい橙色粘土)。砂混じり。カマドの粘土が散ったものか。緻密。10 : 7.5YR 3 / 3 (暗褐色土)・4 / 3 (褐色土)。緻密。**壁面** 残存部は, ほぼ垂直に立ち上がるが, 高さ10cm程度。**床面** ほとんどロームから成る。全体的に硬化しており明瞭。**壁溝** 西コーナー付近以外は認められる。**カマド** 北西壁の2 Dと交わる場所にカマドの痕跡が残ると判断した。ロームを掘り残して袖の芯にしたらしい。

**出土遺物** 総数62点出土。内訳は, 土師器坏23点, 土師器甕26点, 須恵器甕6点, 土器片円盤2点, 軽石細礫1点, 細礫2点, 鉄製品1点, 煙管吸い口1点。これらのうち土師器坏4点, 同甕1点, 須恵器甕3点, 釘1点, 煙管吸い口1点(第25図)を図示した。

良好な資料土師器坏1は, 藤岡氏の分類による土師器坏形土器Ⅶ a - 2類であろう。Ⅴ期(9世紀第2四半期)に主体的となる形態である。



第11図 3 D住居跡実測図



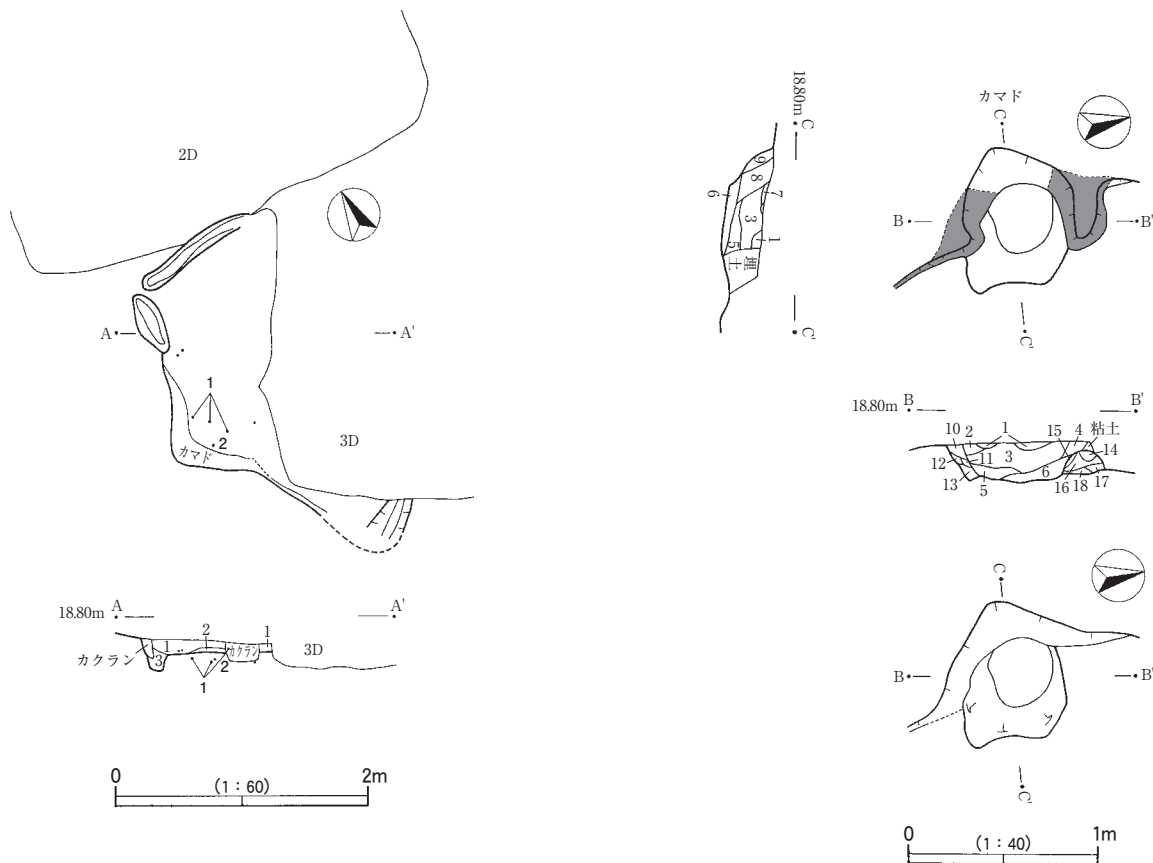
第12図 3D住居跡出土遺物実測図

第3表 3D住居跡出土遺物観察表

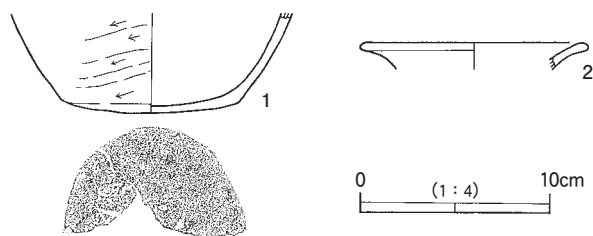
土師器								
No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他	
1	1	坏	3/4 口~底部	高さ4.1 復元口径12.8 底径6.6	○雲母, 粗砂多量 ○良 ●淡褐色	ロクロ成形(外)ロクロ目, 体部下端へら削り(手持ち), 底外)回転へら削り 内)横方向ナデ		
2	6	坏	口縁小片	残存高3.1 復元口径14.2	○雲母細片, 細砂 ○良 ●淡橙褐色	ロクロ成形だがロクロ目不明瞭 横方向ナデ		
3	11	坏	底部小片	復元底径6.2	○雲母細片, 粗砂, 細礫 ○良 ●淡赤褐色	ロクロ成形(内)ナデ 外)体部下端へら削り, 底外)回転へら削り		
4	一括	坏	底部小片	復元底径7.2	○雲母細片, 粗砂, 石英細礫 ○良 ●淡橙褐色, 淡褐色	ロクロ成形(外)ロクロ目明瞭, 体部下端へら削り, 底外)回転へら削りか(内)ナデ		
5	7	甕	口~胴上部	残存高8.9 復元口径19.0 復元頸部径16.9 復元最大径21.0	○粗砂 ○良 ●外)橙褐色 内)褐色	口唇部単純 外)口縁部横方向ナデ, 胴部縦方向へら削り 内)横方向ナデ, 輪積痕		
須恵器								
No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他	
6	5	甕	口縁小片	復元口径17.0	○粗砂少量 ○良 ●褐色	複合口縁 横方向ナデ		
7	4	甕	胴部小片		○雲母細片, 粗砂少量 ○良 ●淡灰褐色	外)叩き目 内)斜方向ナデ		
鉄製品								
No	現地取上げNo	器種	状態・部位	計測値	最大長×最大幅×最大厚(mm)	重さ(g)	特徴	その他
8	一括	釘	先端欠損	27.5×9×5	1.6		断面方形	

**4 D 住居跡** (第13図～14図) **位置** C 8 G。 **平面形態** 方形か。 2 D 住居跡・ 3 D 住居跡・ 1 M 溝跡に切られ, 残存部はカマド周辺のみ。 壁溝で範囲を想定したが, やや不整形。 **規模** 北西-南東方向2.8m, 北東-南西方向残存1.4m。 深さ7~24cm。 **覆土** 1: 7.5YR 3/2 (黒褐色土)。 径3mm以下黄色スコリア・ 焼土粒子・ 炭化材小片を含む。 2: 7.5YR 3/3 (暗褐色土)。 緻密。 ローム・ ロームブロックを含む。 3: 7.5YR 3/3 (暗褐色土)。 2より緻密度低い。 壁溝覆土。 **壁面** ほとんど残存せず。 壁溝で推定した。 **床面** 残存部は少ない。 攪乱あり。 **壁溝** 断続的に存在。 **カマド** 粘土や焼土が良く残存していた。 煙道の外への張り出しは42cm。 **カマド覆土** 粘土は砂混じり。 1: 7.5YR 3/2 (黒褐色土)・ 3/3 (暗褐色土), 2.5YR 3/4 (暗赤褐色焼土)。 粘土ごく少量含む。 2: 2.5YR 3/3 (暗赤褐色焼土)。 3: 2.5YR 3/3 (暗赤褐色焼土)・ 4/6 (赤褐色焼土)。 焼土粒子・ ブロック多量含む。 4: 7.5YR 3/3 (暗褐色土)。 焼土・ 粘土にじむ。 5: 7.5YR 4/3 (褐色土)。 焼土粒子・ 径5mm黄色スコリア少量含む。 6: 2.5YR 3/2 (暗赤褐色焼土)。 焼土粒子を5より多く含む。 粘土含む。 7: 7.5YR 6/4 (にぶい橙色粘土)。 焼土粒子少量, 炭化材片含む。 8: 5 YR 3/3 (暗赤褐色焼土)。 粘土含む。 9: 5 YR 4/3 (にぶい赤褐色焼土)。 ローム含む。 以下カマドの袖 10: 粘土・ 焼土粒子まばら。 11: 粘土・ 焼土粒子まばら, ローム含む。 12: 褐色土。 径1cmロームブロックを含む。 13: 全掘時に掘り広がった部分。 14: 灰褐色土。 15: 粘土。 焼けて赤化。 カマドの内壁。 16: 粘土主体。 袖の中心部。 17: 粘土・ 褐色土・ ロームから成るカマドの基盤。 18: 褐色土・ ロームから成るカマドの基盤。

**出土遺物** 土師器片7点のみ。 7点中5点は, 3 D 所属として取り上げたが, 検討した結果4 D 所属遺物とした。 内訳は皿1点, 鉢1点, 土師器甕5点である。 皿1点, 鉢1点を図示した。 皿は, 小片であり混入と思われる。 丸底気味の鉢が4 D 住居跡に伴うものであり, 古墳時代後期にさかのぼる可能性がある。



第13図 4 D 住居跡実測図



第14図 4 D住居跡出土遺物実測図

第4表 4 D住居跡出土遺物観察表

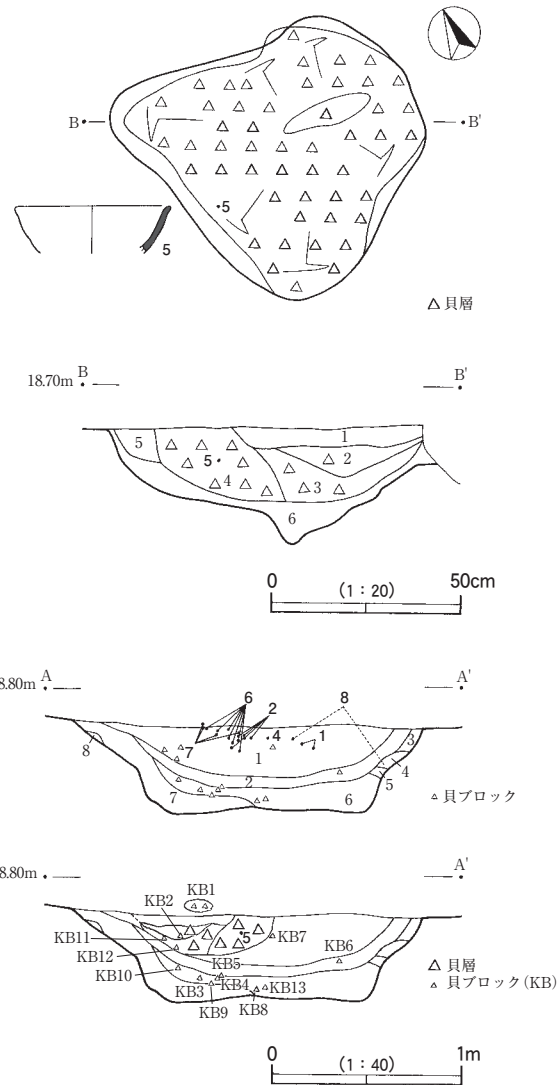
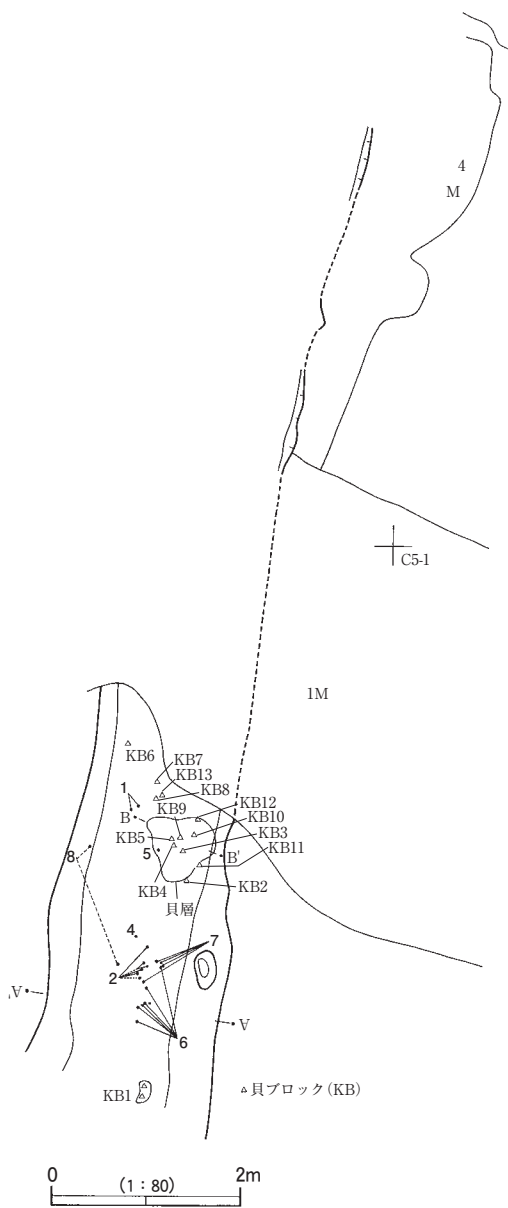
土師器

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	(3 D)16, 13, 17	鉢か丸底気味	胴下～底部	残存高5.3 復元底径9.2	○粗砂多量 ○脆い ●外) 灰褐色, 暗褐色 内) 暗褐色, 灰黒色	外) 横～斜方向へら削り 底外) へら削り 内) ナデ, 亀裂あり	
2	(3 D)15	皿	口縁小片	復元口径12.0	○雲母細片 ○良 ●外) 暗褐色, 灰褐色 内) 黒褐色, 暗褐色, 灰褐色	ロクロ成形 外) 横方向ナデ 内) 横方向ナデ, ミガキ	

2 溝跡

**2 M溝跡** (第15図～16図) **位置** C 2 G～C 1 G。**規模** 幅 上面1.58～2.0m, 底面1.04～1.24m, 深さ43～46cm。残存長10.8m。北側約2/3は, 1 M溝跡と4 M溝跡に切られる。1 M溝跡には完全に破壊されているが, 4 M溝跡部分では底面に2 M溝跡の東壁の痕跡が残っていた。**覆土** 1:7.5YR 3/2 (黒褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。2:7.5YR 2/2 (黒褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアを均一に含む。3:7.5YR 4/3・4/4 (褐色土)。ロームを含む。4:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)。緻密。ロームを含む。5:7.5YR 4/3・4/4 (褐色土)。ロームを含む。6:7.5YR 3/2.5(黒褐色～暗褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアを多量含む。ロームを含む。7:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアを多量含む。ロームを含む。8:7.5YR 4/3 (褐色土)・3/3 (暗褐色土)。ロームを含む。**貝層** 1 Mとの交点付近で貝が出土した。2 M埋没後の覆土に穴が掘られ投棄されたものと判断した。貝殻は全量サンプリングした。貝種は, イボキサゴ, ハマグリ, シオフキガイ, アサリが95%を占める。特定貝種が層を成すというような傾向は見え, 各種が混じり合っているという印象であった。魚骨等は検出されなかった。**覆土** 1:7.5YR 3/2 (黒褐色土) 4/2 (灰褐色土)。径0.5～2mmの黄色スコリアを含む。2:混貝土層7.5YR 3/2・2/2 (黒褐色土)。貝を少量含む。3:混貝土層7.5YR 3/2 (黒褐色土)・3/3 (暗褐色土)。ロームを含む。2よりは貝を多く含む。4:混貝土層7.5YR 3/2 (黒褐色土)。貝が主体。5:7.5YR 3/2 (黒褐色土)。黄色スコリアを少量含む。6:全掘時に掘り広がった部分。**貝ブロック** 貝層の周辺を中心に貝の小ブロックが13箇所ほど認められた。これらの貝の状態は悪く, 細片化していた。13箇所全体でイボキサゴ25個体, ハマグリ2個体分・シオフキガイ3個体分程度であった。貝ブロックKB1とKB6以外は, 貝層に近接するかその下にあった。このことは, 貝層を伴う穴が図示したよりも大きく且つ深く掘られていた可能性を示すものかもしれない。**特記事項** 文化財センターが調査した上の台遺跡で検出された「溝6」と同一である可能性が高い。

**出土遺物** 総数約200点であるが, 1 Mや4 Mの遺物と混交してしまった。土師器坏, 土師器甕, 須恵器坏, 須恵器甕, 陶器, 細礫, 小礫などが出土した。土師器甕が136点で最も多いが, 良好な遺物は須恵器坏に見られた。貝層に伴うと見られる須恵器坏5は, ロクロ目の見えないタイプで, 藤岡氏の分類の須恵器坏形土器Ⅱ類である。須恵器坏6・7は, ロクロ目が明瞭で, 藤岡氏の分類のⅠ-a類と想定する。これらは概ね萱田Ⅰ期～Ⅲ期(8世紀第2四半～第4四半期)に想定できる。5は覆土を掘り込んだ貝層に伴うものであり, 6・7は覆土上層の出土なので, 2 M自体は, より古い時期に造られたと判断される。2 Mは, c地点において4 D住居跡とともに最も古い時期に構築されたものかもしれない。



第15図 2M溝跡実測図



第5表 2M溝跡出土貝類種名表

腹足綱

No.	和名	学名	目名	科名	個体数	割合
1	イボキサゴ	<i>Umbonium (Suchium) moniliferum</i>	原始腹足目	ニシキウズガイ科	2,375	64.43%
2	ウミナナ科種不明	Pomatidae	中腹足目	ウミナナ科	10	0.27%
3	アカニシ	<i>Rapana venosa</i>	新腹足目	アケキガイ科	2	0.06%
4	タニシ科種不明	Vivipariidae	中腹足目	タニシ科	8	0.22%
				小計	2,395	64.98%
5	貝種不明1	イボキサゴの幼貝か			12	
6	貝種不明2	ウミナナ科の幼貝か			1	

二枚貝綱

No.	和名	学名	目名	科名	個体数	割合	内訳	
7	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	マルスタレガイ目	マルスタレガイ科	679	18.42%	右殻	624
							左殻	679
8	シオフキガイ	<i>Mactra quadrangularis</i>	マルスタレガイ目	バカガイ科	365	9.90%	右殻	365
							左殻	331
9	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	マルスタレガイ目	マルスタレガイ科	124	3.36%	右殻	119
							左殻	124
10	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	ウグイスガイ目	イタボガキ科	31	0.84%	右殻	25
							左殻	31
11	オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>	マルスタレガイ目	マルスタレガイ科	6	0.16%	右殻	4
							左殻	6
12	サルボウガイ	<i>Scapharca subrenata</i>	フネガイ目	フネガイ科	2	0.06%		2
13	カガミガイ	<i>Phacosoma japonicum</i>	マルスタレガイ目	マルスタレガイ科	1	0.03%		1
14	マツカサガイ	<i>Inversidens japonensis</i>	イシガイ目	イシガイ科	83	2.25%	右殻	83
							左殻	80
				小計	1,291	35.02%		
				合計	3,686	100.00%		

陸貝

腹足綱 有肺亜綱

No.	和名	学名	目名	科名	個体数
15	キセルガイ科種不明	Clausiliidae	柄眼目	キセルガイ科	1
16	微小貝種不明1				16
17	微小貝種不明2				10

第6表 2M溝跡出土貝類計測表

ハマグリ

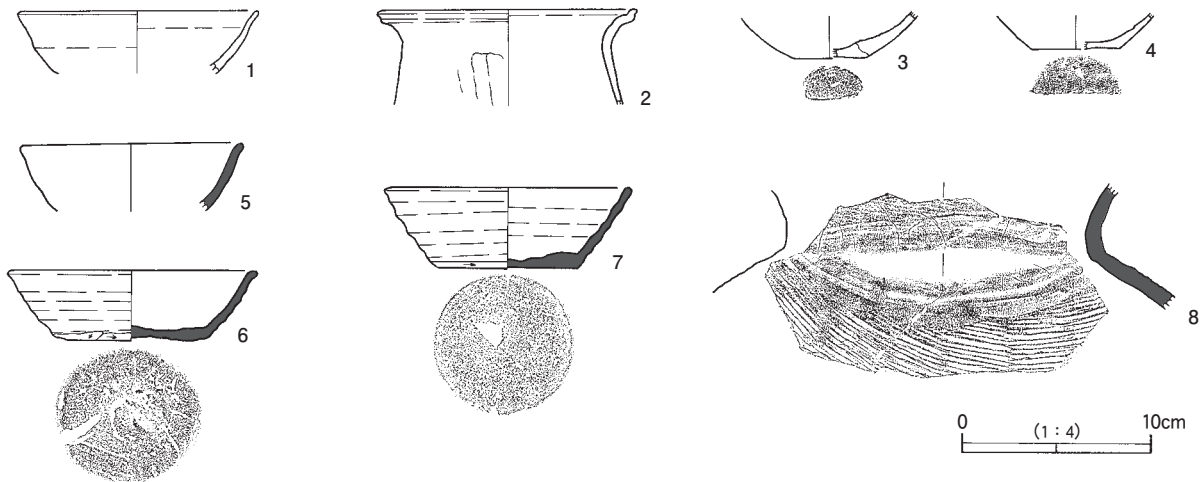
計測値 (cm)	個 数			
	殻長		殻高	
	右殻	左殻	右殻	左殻
~6.5	1	1	0	0
~6.0	0	0	0	0
~5.5	1	0	0	1
~5.0	2	1	1	0
~4.5	4	5	2	1
~4.0	18	18	6	3
~3.5	63	60	21	26
~3.0	67	88	96	104
~2.5	28	37	77	93
~2.0	2	0	8	11
合計	186	210	211	239

アサリ

計測値 (cm)	個 数			
	殻長		殻高	
	右殻	左殻	右殻	左殻
~4.5	4	2	0	1
~4.0	5	10	2	0
~3.5	14	5	1	2
~3.0	8	10	15	15
~2.5	0	1	14	10
~2.0	0	1	0	3
合計	31	29	32	31

シオフキガイ

計測値 (cm)	個 数			
	殻長		殻高	
	右殻	左殻	右殻	左殻
~5.5	0	1	1	0
~5.0	20	10	0	1
~4.5	50	43	19	12
~4.0	50	54	58	55
~3.5	26	20	59	58
~3.0	9	10	19	17
~2.5	0	0	4	4
合計	155	138	160	147



第16図 2 M溝跡出土遺物実測図

第7表 2 M溝跡出土遺物観察表

土師器

No.	現地取上げNo.	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	63, 64, 南一括	坏	口縁部	残存高3.3 復元口径12.6	○粗砂 ○脆い ●淡褐色, 淡灰色	ロクロ成形か ロクロ目不明瞭 横方向ナデ	
2	28, 22, 21 30, 23, 南一括 20	小型甕	口縁～ 胴上	残存高5.1 復元口径13.8 復元頸部径11.1	○粗砂 ○良 ●暗褐色, 黒褐色	口唇つまみ出し外反 外) 横方向ナデ, 胴部ヘラ削り・ナデ 内) 横方向ナデ, 輪積痕	
3	一括	甕	底部	復元底径4.0	○粗砂, 赤褐色粒子 ○良 ●外) 暗褐色, 黒褐色 内) 淡褐色, 褐色	外) 横～斜方向ヘラ削り 底外) ヘラ削り 内) 横～斜方向ナデ	
4	13	甕	底部	復元底径4.8	○粗砂, 赤褐色粒子 ○良 ●暗褐色, 暗赤褐色	外) ヘラ削り 底外) ヘラ削り 内) ヘラ削り, ナデ	

須恵器

No.	現地取上げNo.	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
5	1	坏	1/4弱 口～体部	残存高3.5 復元口径11.8	○粗砂, 細砂 ○良 ●外) 灰色, 黒色 内) 灰色	ロクロ成形 ロクロ目不明瞭 横方向ナデ	確認調査 時出土
6	18, 31, 50, 25 16, 17, 47, 南一括	坏	3/4 口～底部	高さ3.8 復元口径13.2 底径6.8	○石英・長石の細礫多, 粗砂 ○良 ●暗灰色	ロクロ成形 外) ロクロ目明瞭, 体部下端ヘラ削り(手持ち), 底外) ヘラ削り 内) ナデ	
7	19, 25, 26, 27	坏	3/4 口～底部	高さ4.3 口径13.1 底径7.6	○石英・長石の細礫多, 粗砂 ○良 ●暗灰色	ロクロ成形 外) ロクロ目明瞭, 体部下端ヘラ削り(回転), 底外) ヘラ削り 内) ロクロ目, ナデ	
8	54, E2-2～4 1M	甕	頸部	復元頸部径17.0	○粗砂, 細礫 ○良 ●外) 灰色, 暗灰色 内) 灰色	外) 頸部以上ハケ目か, 頸部横方向ナデ, 以 下叩き目 内) 頸部以上横方向ナデ, 以下ヘラ削り後ナ デ	確認調査 第18図6 (市教委2009) と接合

3 土坑 (第17図~18図)

**2 P土坑** 位置 C 4 G。1 D住居跡に切られる。平面形態 円形。底面形態 円形, 平坦。規模(cm) 79×残存66, 深さ22~29。覆土 1:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。2:7.5YR 3/2 (黒褐色土)。径5 cm ロームブロック, 多量の黄色スコリアを含む。3:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。1・2より緻密。径3 cm ロームブロック・黄色スコリアを少量含む。出土遺物 なし。

**3 P土坑** 位置 C 5 G。1 D住居跡に切られる。平面形態 楕円形。底面形態 円形, 平坦。規模(cm) 87×残存50, 深さ20~22。覆土 1:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。黄色スコリアを少量含む。2:7.5YR 3/2 (黒褐色土)。1より緻密。黄色スコリアを多量含む。出土遺物 2点。土師器坏・甕の細片各1点。

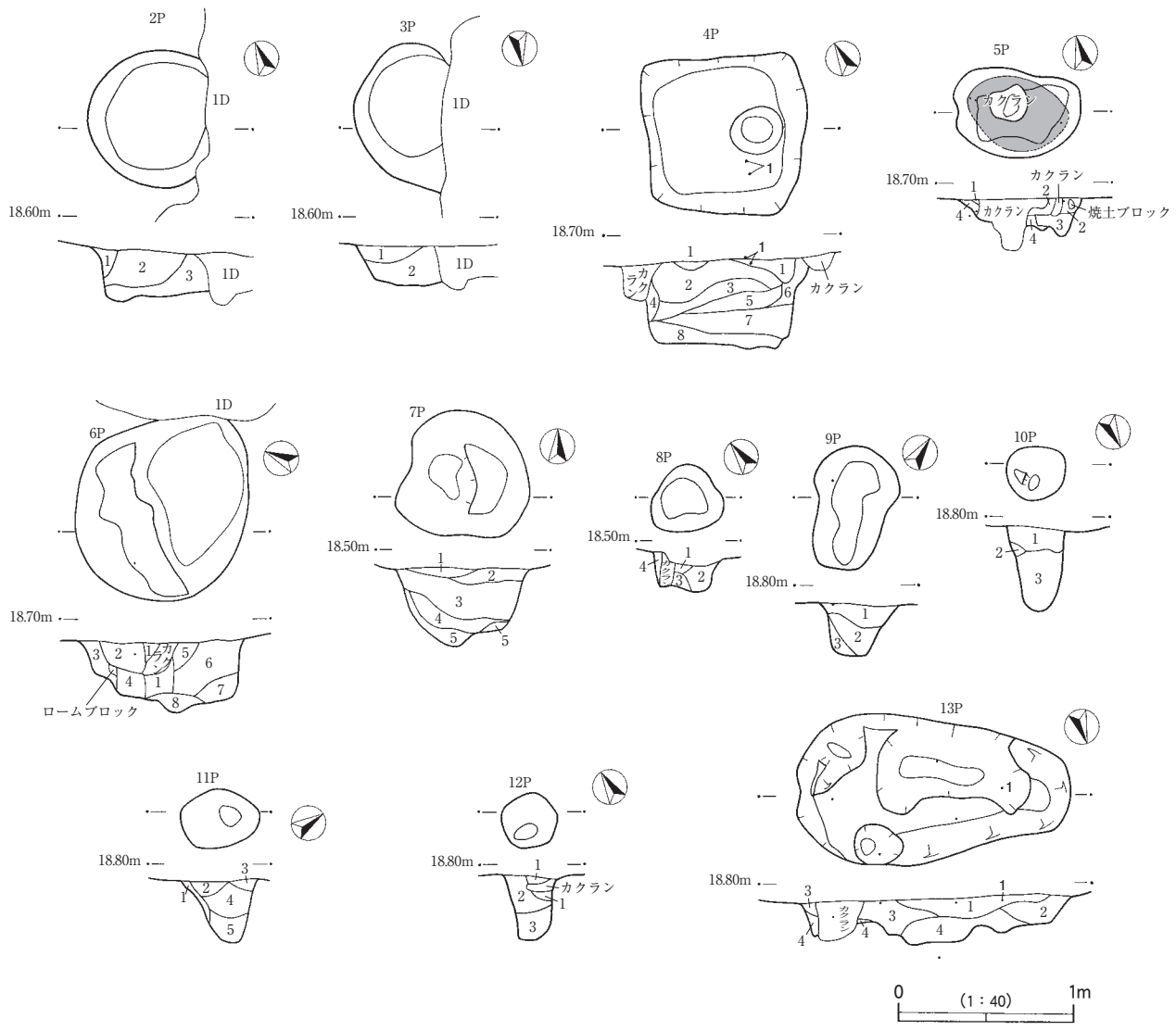
**4 P土坑** 位置 C 5 G~C 8 G。平面形態 方形。底面形態 隅丸方形, 平坦。円形の窪みあり。規模 (cm) 95×90, 深さ47~51。覆土 1:7.5YR 3/2 (黒褐色土)・3/3 (暗褐色土)。ロームを含む。2:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。ロームブロックを含む。3:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3 (褐色土)。径1 cmロームブロックをまばらに含む。4:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3 (褐色土)。緻密度低い。ロームを含む。5:7.5YR 4/3・4/4 (褐色土)。径1~2 cmロームブロックを含む。6:7.5YR 4/3・4/4 (褐色土)。ロームを含む。7:7.5YR 4/4・4/3 (褐色土)。ローム主体。径1~4 cmロームブロックを多量含む。8:7.5YR 4/4・4/3 (褐色土)。ローム主体。しまりよい。出土遺物 3点。土師器坏底部, 須恵器甕底部, 泥面子各1点。坏・甕を図示。

**5 P土坑** 位置 C 5 G。平面形態 楕円形。底面形態 不整形, 凹凸あり。規模 (cm) 73×50, 深さ16~22。覆土 1:2.5YR 3/6 (暗赤褐色焼土)。2:5 YR 3/3 (暗赤褐色焼土)。焼土粒子・径5 cm焼土ブロックを含む。3:7.5YR 4/3 (褐色土)。焼土粒子をまばらに含む。4:全掘時掘り広がり。出土遺物 4点。土師器坏, 土師器甕各2点。

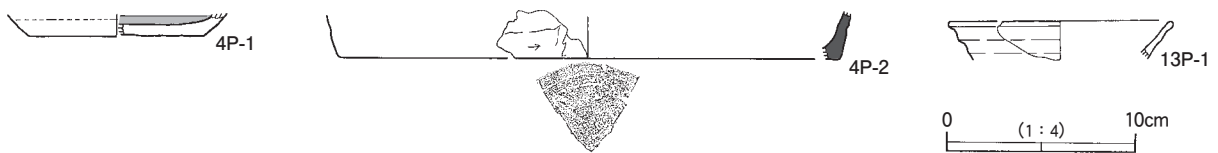
**6 P土坑** 位置 C 4 G~C 5 G。1 D住居跡に接する。平面形態 楕円形。底面形態 不整形, 段差・凹凸あり。規模 (cm) 115×99, 深さ30~40。覆土 1:柱痕。7.5YR 3/2 (黒褐色土)。径2 mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。2:7.5YR 3/2 (黒褐色土)・3/3 (暗褐色土)。径3 mm以下の黄色スコリアを多量含む。3:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)。ロームを含む。4:7.5YR 4/3・4/4 (褐色土)・3/3 (暗褐色土)。径1 cm以下のロームブロック・ロームを含む。5:7.5YR 3/2 (黒褐色土)・3/3 (暗褐色土)。径2 mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。6:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。径3 mm以下の黄色スコリアを多量含む。ロームを含む。7:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・3/2 (黒褐色土)・4/3 (褐色土)。ロームを含む。8:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)。ロームを含む。出土遺物 1点。土師器ロクロ坏の底部小片。

**7 P土坑** 位置 C 8 G。3 D住居跡の床面にあり, 覆土上層に3 Dの貼り床が認められたため3 Dより古いものと判断した。4 D住居跡の範囲内でもあるので, 4 D所属ピットの可能性もあるが, カマドに近く用途の想定が困難である。平面形態 不整形。底面形態 不整形, 段あり。規模 (cm) 79×78, 深さ36~45。覆土 全体にしまりがある。1:7.5YR 3/2 (黒褐色土)・3/3 (暗褐色土)。ロームを含む。2:7.5YR 3/2 (黒褐色土)。径5 mm以下の黄色スコリアを含む。3:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・3/2 (黒褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)。径3 cm以下のロームブロック・ロームを含む。4:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)。ロームを含む。5:全掘時掘り広がり。出土遺物 なし。

**8 P土坑** 位置 C 8 G。3 D住居跡を切る。平面形態 隅丸三角形。底面形態 不整形, 凹凸あり。規模 (cm) 41×38, 深さ20。覆土 1:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。径1~2 mmの黄色スコリアを含む。2:



第17図 土坑実測図



第18図 土坑出土遺物実測図

第8表 土坑出土遺物観察表

4P土坑							
No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	1, 2	土師器環	底部	復元底径9.4	○細砂 ○良 ●外) 暗褐色, 黒褐色 内) 黒色 (内面黒色処理)	ロクロ成形 外) 体部下端へら削り 底外) 回転へら削り 内) ミガキ	
2	一括	須恵器甕	底部	復元底径26.6	○粗砂 ○良 ●外) 暗赤褐色 内) 黒色	外) 横方向へら削り 内) 横方向ナデ	
13P土坑							
No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	3	土師器環	口縁部	残存高2.0 復元口径12.0	○粗砂, 雲母細片 ○良 ●淡褐色	ロクロ成形 横方向ナデ	

7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアを多量含む。ロームを含む。3:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・3/2 (黒褐色土)・4/4 (褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアを多量含む。4:全掘時掘り広がり。**出土遺物** なし。

**9P土坑** 位置 C 5 G。1 M溝跡に切られる。**平面形態** 不整楕円形。**底面形態** 不整形。**規模**(cm) 70.5×50, 深さ30。**覆土** 1:7.5YR 3/2 (黒褐色土)・3/3 (暗褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。2:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)。ロームを含む。3:全掘時掘り広がり。**出土遺物** 土師器甕3点。

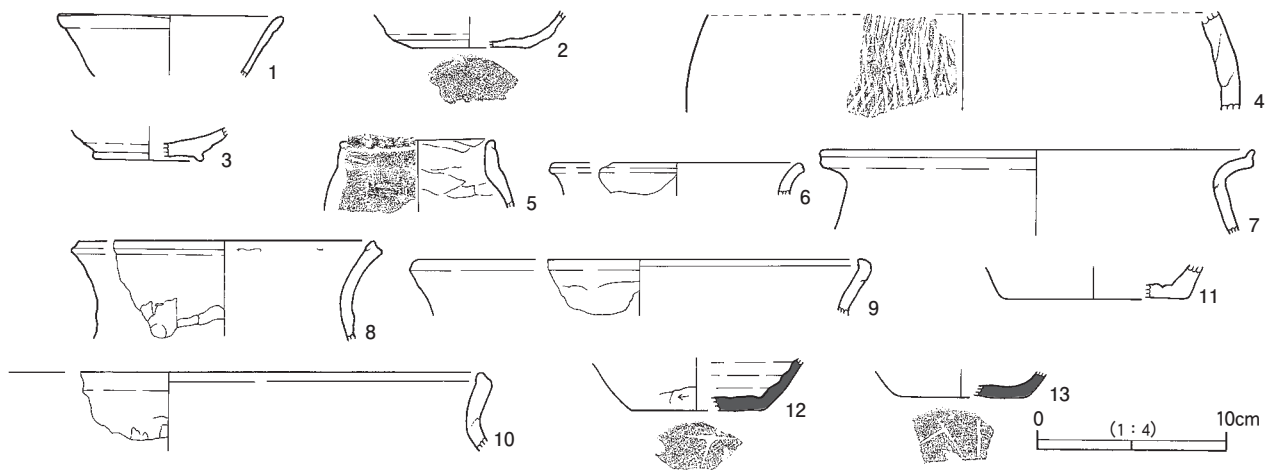
**10P土坑** 位置 C 6 G。**平面形態** 不整円形。**底面形態** 楕円形, 段あり。**規模**(cm) 33×31, 深さ53。**覆土** 1:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。径2mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。ロームを含む。2:7.5YR 4/4 (褐色土)。ローム。3:7.5YR 3/2 (黒褐色土)。径5mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。**出土遺物** なし。

**11P土坑** 位置 C 5 G。**平面形態** 不整楕円形。**底面形態** 三角形, 丸底。**規模**(cm) 46×34, 深さ37。**覆土** 1:7.5YR 4/4 (褐色土)。7.5YR 3/3 (暗褐色土)がにじむ。2:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3 (褐色土)。まだらな色調。3:7.5YR 4/3・4/4 (褐色土)。4:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。径5mm以下の黄色スコリアを含む。5:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。ロームを含む。**出土遺物** なし。

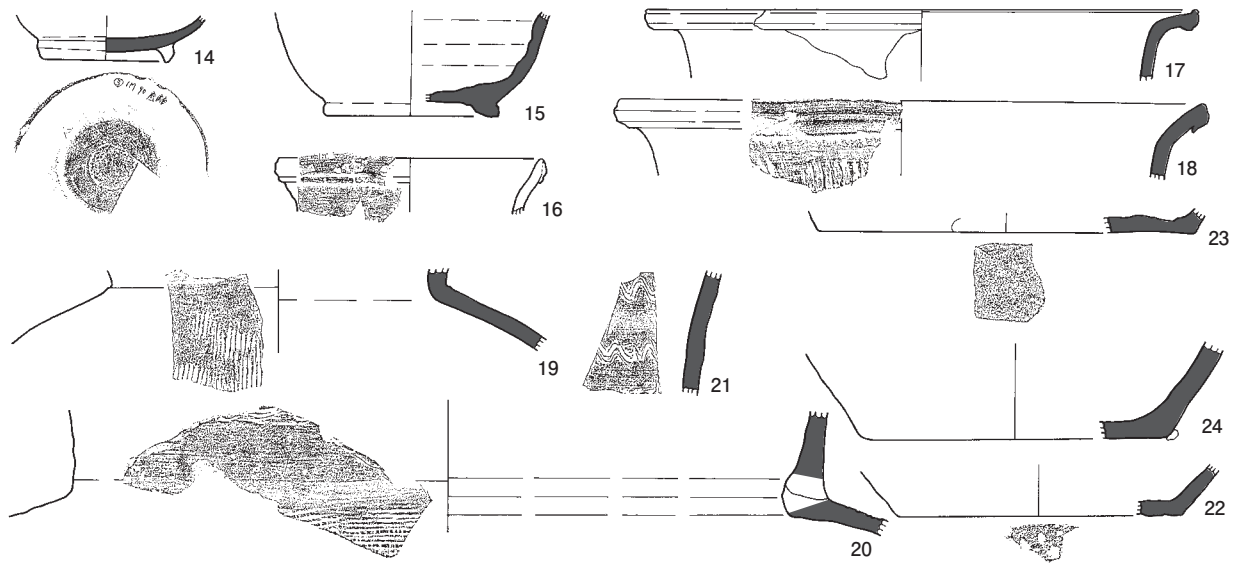
**12P土坑** 位置 C 5 G。**平面形態** 円形。**底面形態** 楕円形。**規模**(cm) 径32, 深さ36。**覆土** 1:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・3/2 (黒褐色土)。ロームを含む。2:7.5YR 3/3 (暗褐色土)。径2mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。ロームを含む。3:7.5YR 3/2 (黒褐色土)・3/3 (暗褐色土)・4/3 (褐色土)。ロームを含む。**出土遺物** なし。

**13P土坑** 位置 C 6 G。**平面形態** 不整長楕円形。**底面形態** 不整形, 段あり。攪乱あり。**規模**(cm) 157×86, 深さ17~34。**覆土** 1:7.5YR 3/3 (暗褐色土)・3/2 (黒褐色土)が混じり合う。径3mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。2:7.5YR 3/2 (黒褐色土)。7.5YR 3/3 (暗褐色土)が混じる。ロームを含む。3:7.5YR 3/2 (黒褐色土)・3/3 (暗褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)が混じり合う。ロームを含む。4:全掘時掘り広がり。**出土遺物** 9点出土。内訳は, 土師器坏4点, 同甕3点, 須恵器甕1点, 小礫1点。これらのうち坏1点を図示した。

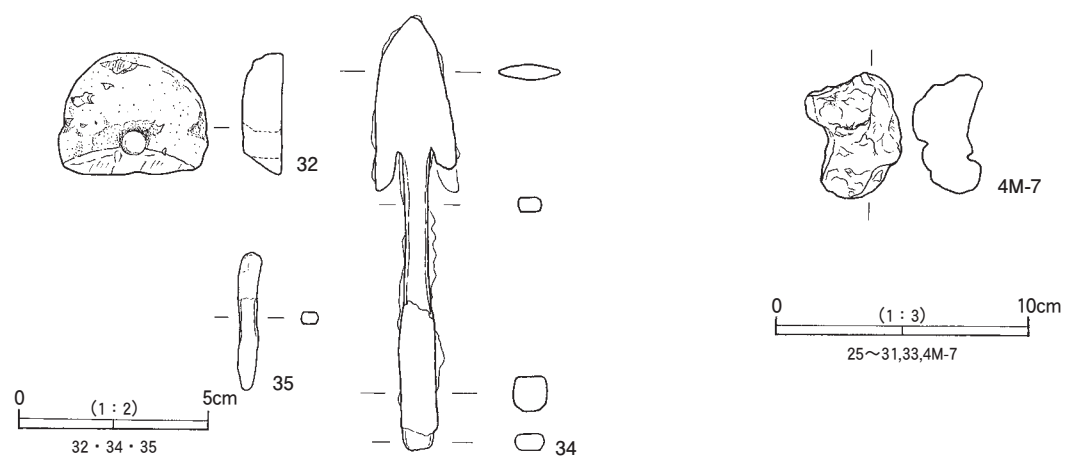
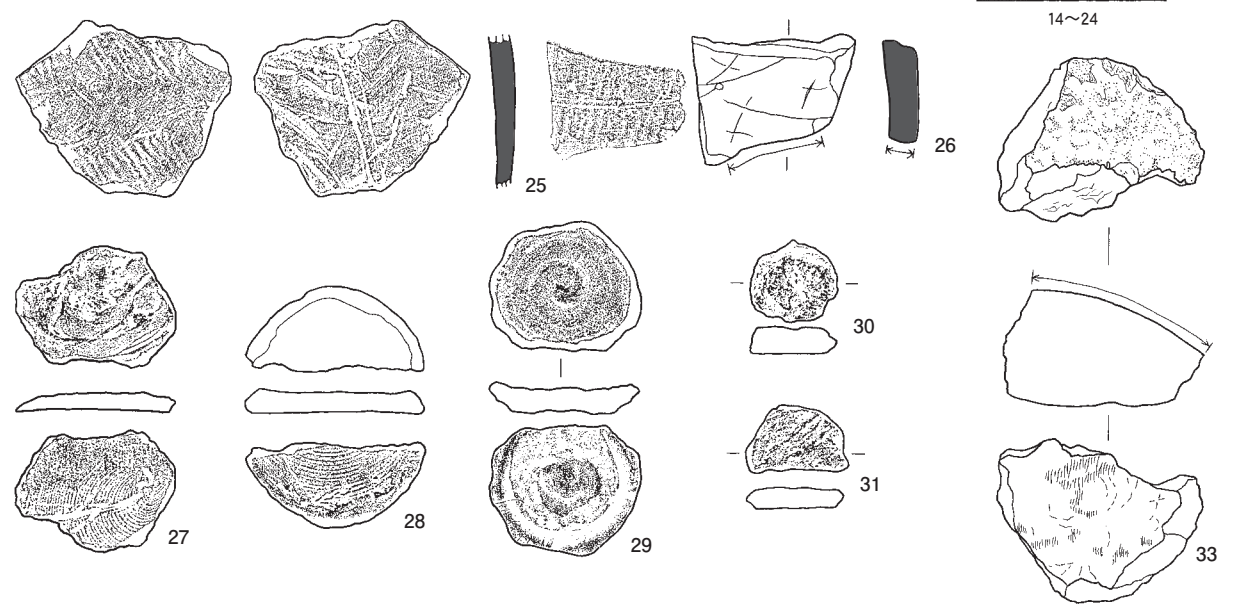
**その他の遺構出土遺物**(第19図~22図) 奈良・平安時代の遺物は, 近世~近・現代の遺構である1 M溝跡, 3 M溝跡, 4 M溝跡にも多数含まれていたもので, それらをここで掲載する。



第19図 1 M溝跡出土遺物実測図(1)



0 (1:4) 10cm  
14~24



0 (1:2) 5cm  
32 · 34 · 35

0 (1:3) 10cm  
25~31,33,4M-7

第20图 1M溝跡出土遺物実測図(2)

第9表 1 M溝跡出土奈良・平安時代遺物観察表

土師器									
No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	胎土	器表	色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	152	坏	口縁部小片	残存高3.2 復元口径12.0	○粗砂 ●橙色	○良		ロクロ成形 ロクロ目不明瞭 横方向ナデ	
2	183	坏	底部	復元底径6.2	○粗砂多量 ●淡褐色、灰色	○良		ロクロ成形 外) 体部下端ヘラ削り(回転) 底外) ヘラ削り 内) ナデ	
3	132	坏 高台付	底部	復元底径5.8	○粗砂 ●淡褐色	○良		ロクロ成形 外) ナデ 内) ミガキ、平滑	
4	126 179 166 268 141 一括	甕	胴部	復元最大径29.2	○粗砂 ●褐色、暗赤褐色	○良		外) 多数の沈線が交差する 内) 横方向ナデ	
5	54	小型甕	口縁部	復元口径8.2	○粗砂 ●暗褐色	○良		外) 輪積痕、斜ヘラ削り 内) 斜ヘラ削り	
6	一括	小型甕	口縁部小片	復元口径13.4	○細砂 ●外) 褐色 内) 褐色、灰黒色	○良		横方向ナデ	
7	209	甕	口～頸部小片	復元口径23.1 復元頸部径20.0	○雲母細片、長石、石英の細礫 ●外) 淡褐色 内) 淡褐色、橙色	○良		口唇部つまみ出し直立～やや外反 横方向ナデ	
8	22	小型甕	口～頸部	復元口径15.6 復元頸部径13.5	○細砂、粗砂 ●黒褐色 割口) 黒褐色	○良		口唇部つまみ出し内傾か 外) 頸部以上は横方向ナデ、以下縦方向ヘラ削り 内) 横方向ナデ	
9	131	甕	口縁部	復元口径24.6 復元頸部径22.0	○粗砂少量、細砂 ●外) 褐色 内) 淡褐色	○良		口唇部つまみ出し内傾 横方向ナデ	
10	140	甕	口～頸部	復元口径34.0 復元頸部径32.8	○粗砂 ●褐色	○良		口唇部つまみ出し内傾 外) 横方向ナデ、ヘラ削り 内) 横方向ナデ	
11	171	甕	底部	復元底径9.8	○粗砂 ●外) 褐色 内) 橙褐色	○良		外) 横方向ヘラ削り 底外) ナデか 内) ナデ、凹凸あり	

須恵器

須恵器									
No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	胎土	器表	色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
12	103、E2-4 1M	坏	体下～底部小片	復元底径7.0	○雲母細片、粗砂 ●灰白色	○良		ロクロ成形 外) 体部下端ヘラ削り(手持ち) 底外) 線刻「入」か、ヘラ削り 内) ロクロ目明瞭	
13	E2-4 1M	坏	底部小片	復元底径6.8	○雲母細片、石英・長石細礫 ●灰色	○良		ロクロ成形 底外) 線刻「入」か、ヘラ削り 内) ナデ	
14	E2-4 1層、90	坏 高台付	底部	高台径7.2	○緻密 ●灰白色、灰緑色釉	○良		ロクロ成形 ナデ	確認調査 遺物 第18図5 (市教委2009) と接合
15	207	壺 高台付	胴下～底部	復元高台径9.2 復元上端径14.5	○黒色粒子 ●灰白色、灰緑色釉	○良		ロクロ成形 外) 高台に石英細礫等が付着 内) ロクロ目明瞭	
16	160、一括	甕	口縁部	復元口径14.4	○雲母細片 ●褐色	○良		複合口縁 外) 横方向ナデ、叩き目 内) 横方向ナデ痕顕著	
17	91	甕	口縁部	復元口径29.2	○粗砂、細砂 ●灰色	○良		横方向ナデ	
18	176	甕	口縁部	復元口径32.0	○細砂、粗砂 ●黒褐色	○良		外) 横方向ナデ、叩き目 内) 横方向ナデ	
19	277、72	甕	頸部～胴上部	復元頸部径17.6	○細砂 ●外) 灰白色、灰色、灰黒色 内) 灰色	○良		外) 横方向ナデ、叩き目 内) ナデ	
20	2 M-70	甕	頸部	復元頸部径40.2	○雲母細片、細礫 ●外) 灰白色 内) 灰色、灰褐色	○良		外) 横方向ナデ、波状文か、叩き目 内) 横方向ナデ、ナデ 重厚なつくり	2 M から 1 M に変更
21	94	甕	胴部		○白色粒子、細礫 ●外) 灰白色 内) 灰黒色、白色粒子	○良		外) 横方向ナデ、波状文 内) 横方向ナデ	
22	161	甕	底部	復元底径15.2	○雲母細片 ●外) 黒褐色、暗褐色 内) 黒褐色	○良		外) 横方向ナデ 底外) 刺突のような窪み4箇所 内) 横方向ナデ	
23	180	甕	底部	復元底径20.0 重さ5.5 g	○粗砂 ●外) 褐色 内) 褐色、赤褐色	○良		外) 横方向ヘラ削り 底外) ヘラ削り 内) ナデ、凹凸あり	
24	221	甕	胴下部～底部	復元底径16.2	○粗砂 ●外) 灰白色、灰赤褐色 内) 灰白色、淡灰赤褐色	○良		外) ナデ、粘土付着 内) 横方向ナデ、ミガキ	

土製品

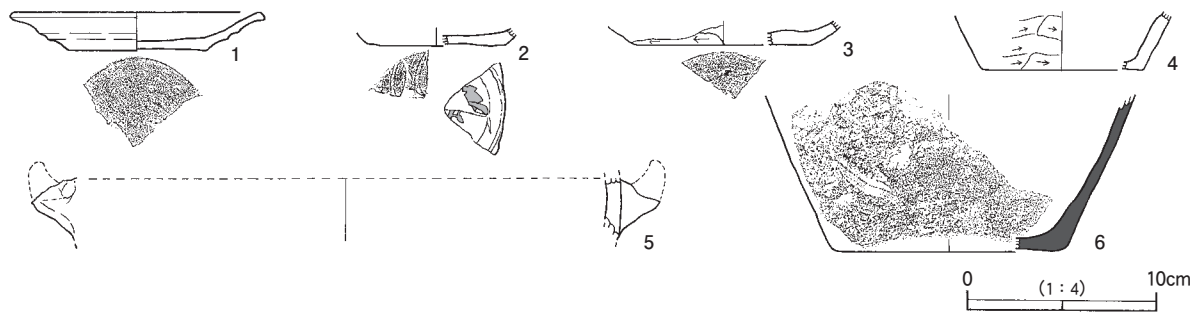
土製品									
No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	胎土	器表	色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
25	46	甕 須恵器片 再利用品	胴部	85×68×厚さ8.5 重さ56.4 g	○細礫、粗砂 ●外) 灰色、灰白色 内) 灰白色	○良		外) 擦痕、叩き目が擦られて平滑になっている 内) 擦痕や線刻	
26	290	甕 須恵器片 再利用品	胴部	64×51×厚さ12.5 重さ53.6 g	○細砂、細礫 ●灰色	○良		破片の角や割れ口に擦られた痕跡がある 外) 線刻	
27	50	坏 土師器	土器片円盤 底部	64×46×厚さ7 重さ27.6 g	○粗砂 ●淡褐色	○良		ロクロ成形 底外) 回転糸切痕 内) ナデ痕	
28	153	坏 土師器	土器片円盤 底部	71×33×厚さ10 重さ21.9 g	○粗砂多量、細礫少量 ●橙色	○良		ロクロ成形 底外) 回転糸切痕 内) ナデ、ミガキ	
29	一括	高台坏か 土師器	土器片円盤 底部	60×51×厚さ14 重さ33.2 g	○粗砂 ●外) 淡褐色 内) 灰黒色、灰褐色	○良		ロクロ成形 底外) 高台径小さく特徴的 内) 渦巻状線刻あり	
30	77	甕か 土師器	土器片円盤 底部	34×32×厚さ10.5 重さ12.2 g	○粗砂 ●外) 暗褐色、褐色 内) 赤褐色	○良		底外) 平坦 内) 窪みあり	
31	218	甕か 須恵器	土器片円盤 胴部か	40×26×厚さ8 重さ9.4 g	○細砂 ●灰白色	○良		外) 荒れていて不明 内) 凹凸あり	

石製品

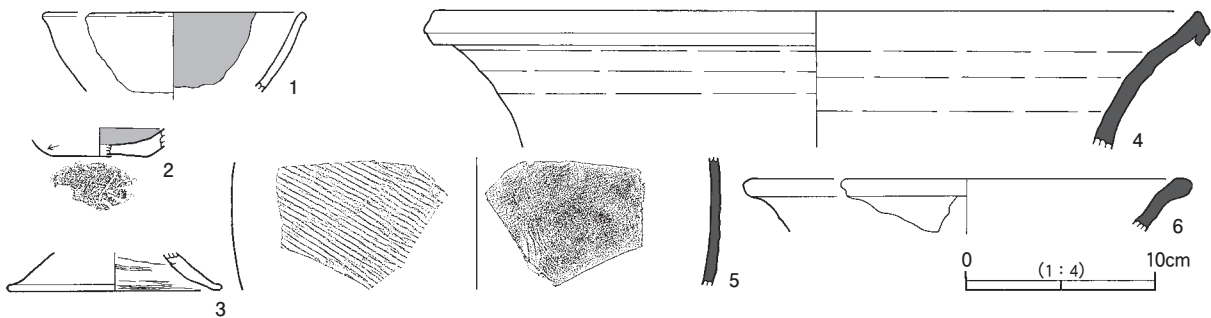
石製品									
No	現地取上げNo	器種	状態・部位	計測値	最大長×最大幅×最大厚(mm)	重さ(g)	特徴	その他	
32	64	有孔円盤	2/3	径39.5×残存32×10.5、	孔径6.5	3.4	割れ口擦られている。白色系軽石製		
33	108	砥石	1/3	82.5×70×45		249.2	平滑な面と凹凸を擦って凸部を平らにしている面とがある。重みあり		

鉄製品

鉄製品									
No	現地取上げNo	器種	状態・部位	計測値	最大長×最大幅×最大厚(mm)	重さ(g)	特徴	その他	
34	293	鉄鎌	身・筥被	全長114.5 鎌身長36 幅21 逆刺長10 筥被長78.5 幅6.9		17.5 g	茎部欠損か。筥被の太くなっている部分には、木質認められない		
35	113	釘か	両端欠損	36×4.5×3		2.1	断面方形		



第21図 3 M溝跡出土遺物実測図



第22図 4 M溝跡出土遺物実測図

第10表 3 M溝跡出土奈良・平安時代遺物観察表

土師器							
No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	13	皿	1/4 口~底部	高さ2.0 復元口径13.6 復元底径7.2	○粗砂, 細礫少量 ○良 ●灰褐色	ロクロ成形 底外) 回転ヘラ削り 内) ナデ	
2	9	坏	底部 1/4	復元底径7.3	○粗砂 ○良 ●外) 褐色, 淡褐色 内) 橙褐色	ロクロ成形 底外) 墨書あり, 回転糸切痕, 周縁ヘラ削り 内) ナデ	
3	2 D-82	坏	底部小片	復元底径9.2	○雲母細片, 粗砂 ○良 ●外) 淡橙褐色 内) 淡褐色	ロクロ成形 外) 体部下端ヘラ削り(手持ち) 底外) ヘラ削り 内) ナデ, ミガキ	
4	2 D-14	甕	底部小片	復元底径8.6	○粗砂, 細礫 ○良 ●外) 灰褐色 内) 淡褐色	外) 横方向ヘラ削り 底外) ヘラ削り 内) 横方向ナデ	
5	2 D-83	甕	把手	復元上端径29.0	○細砂, 赤褐色粒子 ○良 ●橙褐色	外) ヘラナデ 内) ナデ	

須恵器

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
6	16	甕	胴下~ 底部	残存高8.3 復元底径12.6 復元上端径19.8	○粗砂 ○肌荒れ状態 ○良 ●外) 暗褐色, 灰褐色 内) 淡灰褐色	肌荒れ状態, 剥離 外) ミガキか 内) ナデ	

第11表 4 M溝跡出土奈良・平安時代遺物観察表

土師器							
No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	2M-56	坏	口縁部	残存高4.2 復元口径13.8 復元底径5.2	○粗砂少量 ○良 ●外) 褐色, 黒色 内) 黒色(内面黒色処理)	外) 横方向ミガキ 内) 横方向ナデ・ミガキ	
2	2M-2	坏	底部	復元口径13.8 復元底径5.2	○粗砂 ○やや良 ●外) 褐色 内) 黒色(内面黒色処理)	ロクロ成形 外) 体部下端ヘラ削り 底外)ヘラ削り 内) ミガキ ゆがみあり	
3	2M-58	高坏か	脚部	残存高2.0 復元底径11.4	○粗砂 ○良 ●褐色, 淡赤褐色	外) 横方向ナデ 内) ハケ目, 輪積痕	

須恵器

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
4	2M-39, 49, 53, 1M-185 2M-38 1M-245	甕	口縁部	復元口径40.4 復元頸部径31.2	○粗砂, 細礫 ○良, 堅緻 ●外) 口唇灰色, 灰黒色 内) 灰色, 黄白色の斑点	ロクロ成形 複合口縁 外) 横方向ナデ痕顕著 内) 横方向ナデ	
5	2M-41	甕	口縁部	復元口径23.8	○雲母細片, 石英細礫 ○脆い ●淡灰褐色	横方向ナデか	
6	2M-60	甕	胴部	復元最大径26.0	○粗砂微量, 緻密 ○良 ●外) 暗灰褐色, 灰白色 内) 灰色, 暗灰褐色	外) 叩き目 内) 当て具痕	

土製品

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
7	2M-35	焼成 粘土塊	完形	50×34.5×厚さ24 重さ26.7g	○橙褐色粒子, 雲母細片, 粗砂, スサ ○脆い ●淡褐色, 淡灰褐色		第20図



## 第2節 近世以降

近世と考えられる溝跡1条，土坑1基，近・現代と考えられる溝跡2条を検出した。各溝跡には，奈良・平安時代の遺物が多量流入していた。それらについては第1節に掲載した。

**1M溝跡** (第19図・20図・23図) **位置** 調査区中央を北西～南東方向に貫く。**規模** 幅 上面3.2～4.24m，底面1.6～2.12m，深さ52～60cm。ピット状部分は82～116cm。残存長26.6m。**覆土** 1:7.5YR3/2 (黒褐色土)。径1mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。2:7.5YR3/3 (暗褐色土)。径5mm以下の黄色スコリアを多量含む。径2cm以下のロームブロックをまばらに含む。3:7.5YR3/3 (暗褐色土)。径5mm以下の黄色スコリアを多量含む。4:7.5YR3/2 (黒褐色土)。径2mm以下の黄色スコリアをやや多く含む。5:7.5YR3/3 (暗褐色土)・3/2 (黒褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)。ローム・ロームブロックを含む。しまりあり。6:7.5YR3/3 (暗褐色土)。径5mm以下の黄色スコリアを多量含む。7:7.5YR3/3 (暗褐色土)・4/4 (褐色土)。ロームを含む。8:7.5YR3/3 (暗褐色土)・3/2 (黒褐色土)・4/4 (褐色土)。ロームを含む。炭化材小片を含む。9:7.5YR4/3・4/4 (褐色土)。ロームを含む。10:7.5YR3/3 (暗褐色土)・4/4 (褐色土)。ローム・ロームブロックを含む。11:7.5YR3/3 (暗褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアを含む。炭化材小片を含む。12:7.5YR3/3 (暗褐色土)・4/4 (褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアを含む。ロームを含む。**P1** 溝底の窪みから，馬の顎骨・歯骨と肢骨，一頭分の一部が出土した。状態は不良であった。馬骨はこの他に44箇所歯骨が出土した。10本前後の歯列を成すものが4箇所，他は2～3本単位の出土であった。**特記事項** 確認調査時の所見で近世の溝と判断した。検出部分の約二分の一を掘削調査した。

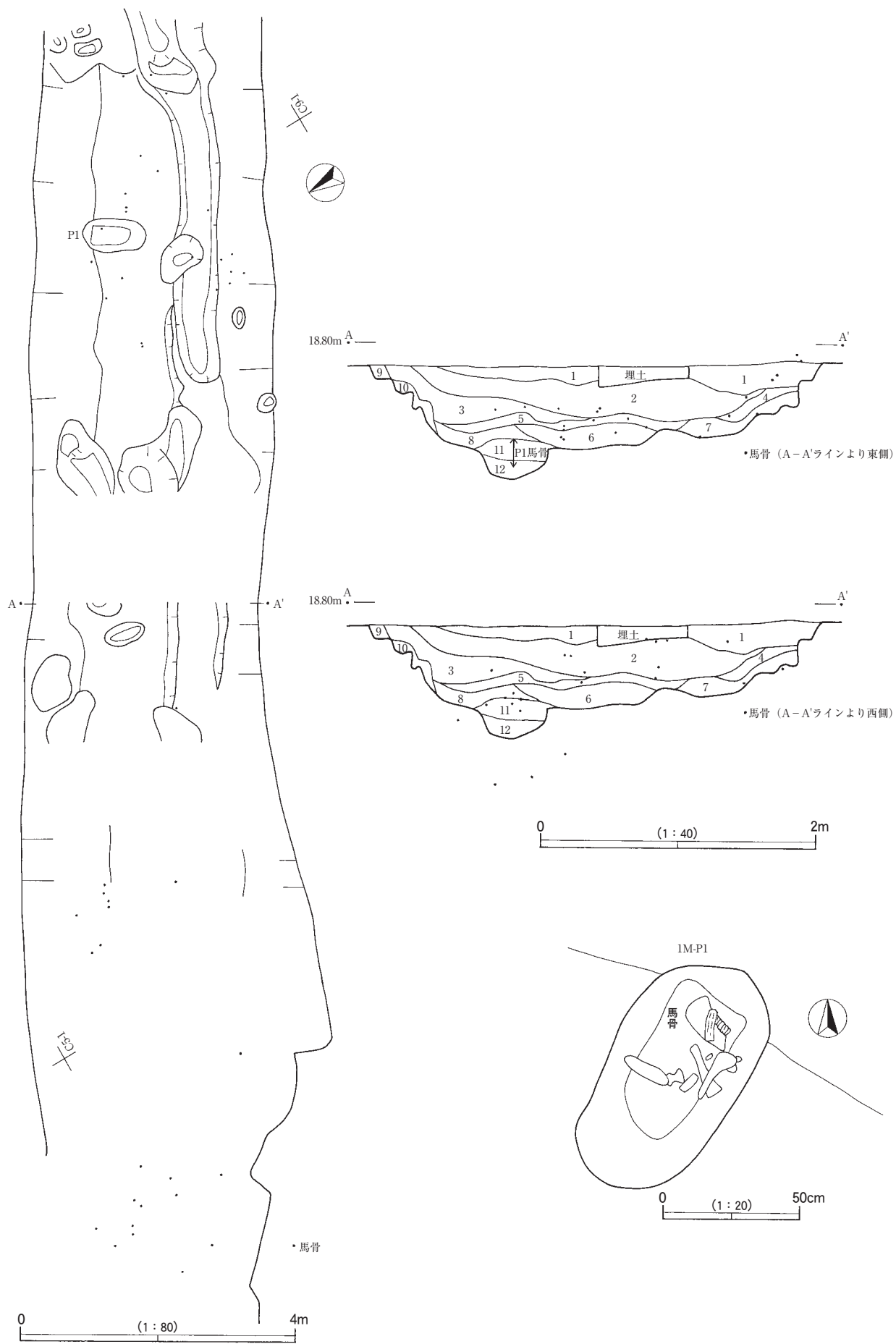
**出土遺物** 910点出土。内訳は，土師器坏159点，土師器甕285点，土師器小・細片278点，須恵器坏12点，須恵器壺1点，須恵器甕101点，播鉢2点，陶器14点，土器片再利用品2点，土器片円盤3点，焼成粘土塊9点，軽石製有孔円盤1点，磨石1点，黒曜石剥片1点，細礫～小礫29点，鉄製品5点，鉄滓7点などである。奈良・平安時代と考えられる各種遺物35点を図示した。

**3M溝跡** (第21図・25図) **位置** 調査区北東部にあり，1D住居跡・2D住居跡を切る。**特記事項** 現在の地境と一致しており，近・現代の溝と判断した。**出土遺物** 約40点出土。土師器皿・坏・甕・甌，須恵器甕，素焼土器合計8点を図示した。

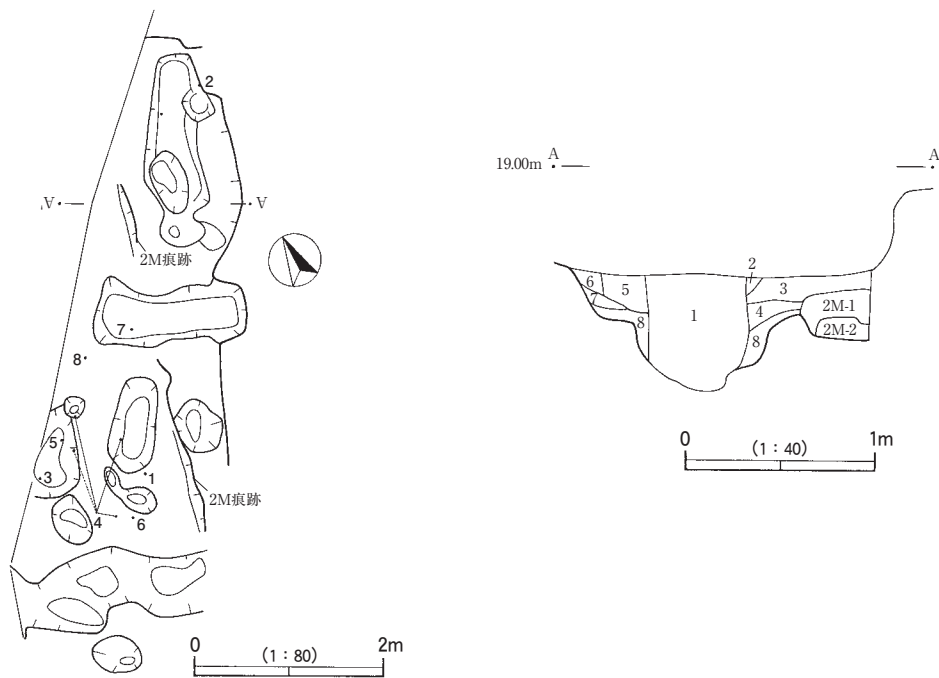
**4M溝跡** (第22図・24図・25図) **位置** C1G。2M溝跡を切るが，底面にその痕跡が残っていた。**特記事項** 確認調査時には攪乱として認識した。埋没後掘り返したような痕跡がある(覆土の1)。**覆土** 1:7.5YR3/2 (黒褐色土)。径1～2cmのロームブロック，径3mm以下黄色スコリアをまばらに含む。2:7.5YR3/3 (暗褐色土)・4/3 (褐色土)。径2cmのロームブロック含む。径3mm以下黄色スコリアを多量含む。3:7.5YR3/3 (暗褐色土)。径5mm以下黄色スコリアを含む。4:7.5YR3/3 (暗褐色土)。径5mm以下黄色スコリアを多量含む。5:7.5YR3/2.5 (暗褐色～黒褐色土)。径1mm黄色スコリアをまばらに含む。6:7.5YR3/3 (暗褐色土)・4/3 (褐色土)。緻密度低い。7:7.5YR3/2 (黒褐色土)。径2mm以下黄色スコリアを含む。8:7.5YR4/4・4/6 (褐色土・ローム)・3/3 (暗褐色土)。屑粒状の部分あり。2M-1:7.5YR3/2 (黒褐色土)。径2mm以下黄色スコリアをまばらに含む。2M-2:7.5YR3/4 (暗褐色土)。緻密。径2mm以下黄色スコリアをまばらに含む。**出土遺物** 土師器坏2点，同高坏脚部1点，須恵器甕3点，焼成粘土塊1点(第20図)，ガラス製品1点を図示した。

**1P土坑**(第9図)**位置** C8G。2D住居跡を切る。**平面形態** 長楕円形。**底面形態** 長楕円形。**規模**(cm) 112×58，深さ41。**覆土** 1:7.5YR3/3 (暗褐色土)・3/2 (黒褐色土)。径3mm以下の黄色スコリアを多量，黒色スコリアをまばらに含む。2:7.5YR3/3 (暗褐色土)。径2mm以下の黄色スコリアを多量含む。3:7.5YR3/3 (暗褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)。径10mm以下のロームブロックを少量・黄色スコリアを多量含む。ロームを含む。4:全掘時掘り広がり。**出土遺物** 鉄滓2点出土。2Dからの混入であろう。

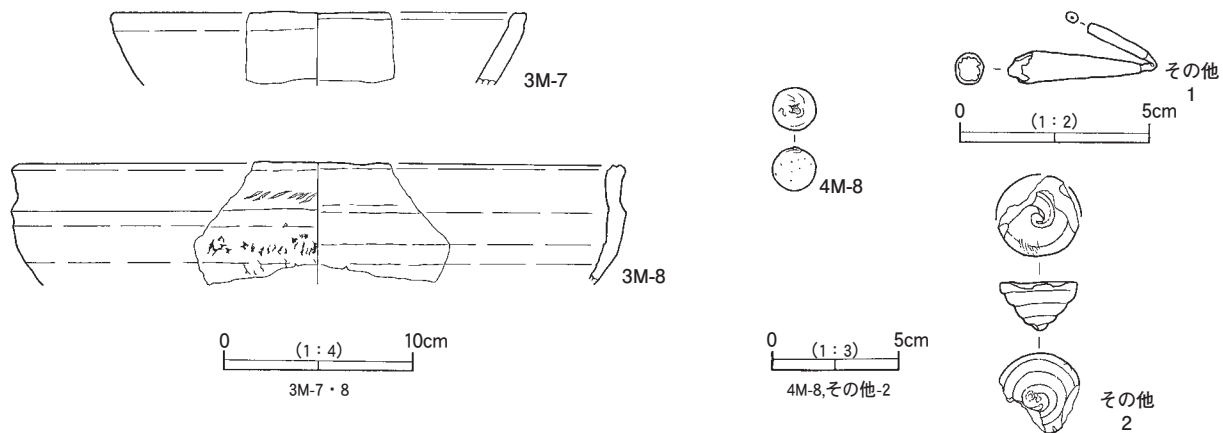
**その他の遺物**(第25図) 煙管の吸い口とベイ独楽を図示した。



第23図 1 M溝跡実測図



第24図 4 M溝跡実測図



第25図 3 M溝跡・4 M溝跡・その他の遺物実測図

第12表 3 M溝跡出土遺物観察表 (1~6は第10表)

素焼土器

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
7	12	鉢か	口縁部	復元口径22.0	○粗砂 ●外) 灰褐色, 黒褐色 内) 灰褐色 割口 淡褐色	ロクロ成形 外) ナデ 内) 横方向ナデ	
8	覆土一括, 表採	焙烙か	口縁部	残存高6.4 復元口径32.4	○粗砂微量 ○良 ●外) 黒褐色 内) 淡橙色, 褐色	ロクロ成形 外) 上半横方向ナデ, 下半ヘラ削りか 内) 横方向ナデ痕跡著	

第13表 4 M溝跡出土遺物観察表 (1~7は第11表)

ガラス製品

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値	最大長×最大幅×最大厚(mm)	重さ(g)	特徴	その他
8	2M-44	ビー玉	完形	径16.5~17	6.2		不純物が入り少しいびつ, 琥珀色	

第14表 その他の遺物観察表

銅製品・石製品か

No	現地取上げNo	器形	状態・部位	計測値	最大長×最大幅×最大厚(mm)	重さ(g)	特徴	その他
1	3 D一括	煙管	吸い口	60 (折れている)	8.5×7.5	2.9	銅製	
2	清掃面一括	ペイ独楽	3/4	径33 高さ19.5		9.0	上部の浮き彫りは貝殻の螺旋を模しており, 古相を示す。白色, 石膏製か。戦時中の金属 不足時代のものか。	

# 第3章 成果と課題

## 第1節 奈良・平安時代

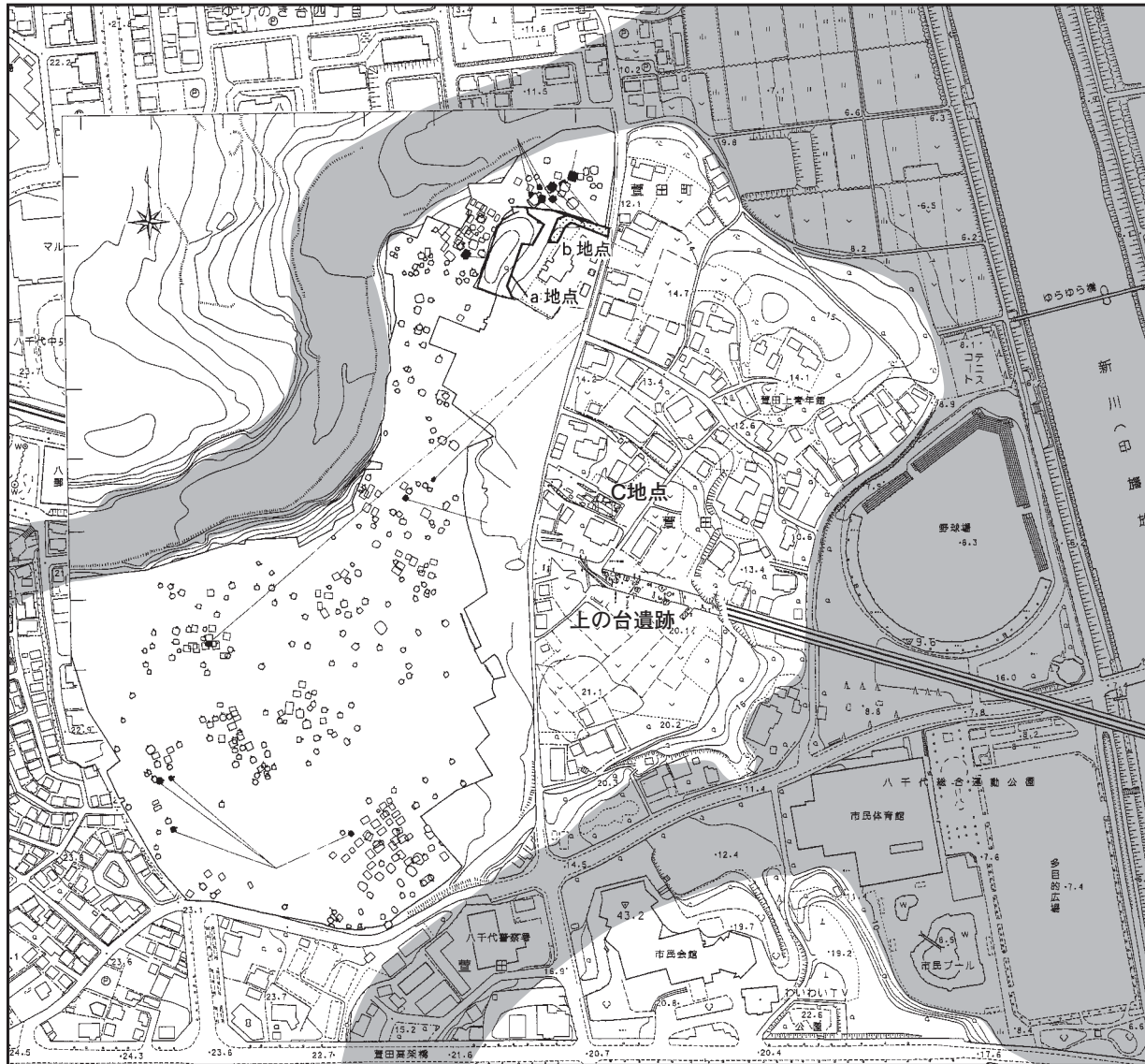
竪穴住居跡4軒，溝跡1条，土坑12基を調査した。

### 1 竪穴住居跡

各住居跡の想定年代は，古い順に，4D住居跡：古墳時代後期以降8世紀頃，1D住居跡：藤岡孝司氏の「萱田編年」（藤岡1990年）の萱田Ⅳ期（9世紀第1四半期），3D住居跡：萱田Ⅴ期（9世紀第2四半期），2D住居跡：萱田Ⅶ～Ⅷ期（9世紀第4四半期～10世紀第1四半期）である。

特筆されるのは，2D住居跡で，P2・P3を中心に轆の羽口や鉄滓が出土し，小鍛冶遺構の可能性はある。鉄滓については大きき10mm前後以上のものを認識したのみで，鍛造剥片や粒状滓などの分離には至っておらず，分析も不十分なので今後の課題としておきたい。なお，2D住居跡とほぼ同時期の資料としては，大和田新田芝山遺跡で製鉄炉や鋳型，鍛冶炉が検出されている（第15表）。

墨書土器は少なく，明瞭なものは1D住居跡出土の「丁」（あるいは「入」と書かれた土師器坏のみであった。



第26図 白幡前遺跡における遺構の分布 (1:5,000)

## 2 溝跡

2 M溝跡は、概ね萱田Ⅰ期～Ⅲ期（8世紀第2四半～第4四半期）より古い時期と想定できる。千葉県文化財センターが調査した上の台遺跡で検出された「溝6」の延長線上にあり、同一の溝である可能性が高い。

2 M溝跡で特筆されるのは、覆土に掘り込まれた穴に形成された貝層である。須恵器の坏が伴っており、8世紀代と想定する。内湾砂泥底の貝であるイボキサゴ・ハマグリ・シオフキガイ・アサリが95%を占めており、マツカサガイとタニシ科を少量含む主鹹貝塚である。この貝種は、八千代市内の古墳時代後期～平安時代に見られる遺構内貝層と同様の傾向である（第16表）。海産の貝については、東京湾からもたらされたものであろう（笹生2008年）。遺構覆土に穴を掘って貝を投棄している例は、上谷遺跡にある。

## 3 土坑

土坑の中には掘立柱建物跡を構成するものが含まれると予想したが、明確なものは確認できなかった。6 P土坑にのみ柱痕が認められた。2 P・3 P土坑は、1 D住居跡に切られ、7 P土坑は3 D住居跡に切られており、住居跡よりも古い時期の土坑が多いようである。

## 第2節 近世以降

近世と考えられる溝跡1条、土坑1基、近・現代と考えられる溝跡2条を調査した。

近世と考えられる1 M溝跡は規模が大きく、奈良・平安時代の遺物が多量流入していた。溝底に多数のピットを不規則に伴う類例は、浅間内遺跡M11北西-南東溝（市教委2007年）や同遺跡のM34溝（八千代市遺跡調査会2007年）がある。

1 M溝跡からは、馬骨（主に歯骨）が出土した。P1とした溝底の窪みからは、顎骨や肢骨も出土し、1頭分が埋葬されたものと考えられる。溝底のピットから馬骨が出土した例は浅間内遺跡のM34溝にある（第17表）。馬骨についての分析は、今後の課題である。

## 参考文献

- （財）千葉県都市公社（1975年）『八千代市村上遺跡群』  
八千代市史編さん委員会（1979年）『八千代市の歴史』  
八千代市教育委員会（1982年）『千葉県八千代市高津新山遺跡-昭和56年度確認調査の概要-』  
八千代市教育委員会（1983年 a）『千葉県八千代市高津新山遺跡Ⅱ-昭和57年度確認調査の概要-』  
八千代市教育委員会（1983年 b）『八千代の遺跡-千葉県八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書-』  
八千代市教育委員会（1984年）『千葉県八千代市高津新山遺跡Ⅲ-昭和58年度確認調査の概要-』  
（財）千葉県文化財センター（1984年）『八千代市権現後遺跡-萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ-』  
（財）千葉県文化財センター（1985年）『八千代市北海道遺跡-萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅱ-』  
（財）千葉県文化財センター（1987年）『八千代市井戸向遺跡-萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-』  
（財）千葉県文化財センター（1990年）『八千代市仲ノ台遺跡・芝山遺跡-東葉高速鉄道引込み線および車庫用地内埋蔵文化財調査報告書-』  
藤岡孝司（1990年）「八千代市萱田地区遺跡群の歴史時代土器」、『研究連絡誌』30  
落合章雄（1991年）「八千代市芝山遺跡の鋳型について」、『研究連絡誌』31  
（財）千葉県文化財センター（1991年）『八千代市白幡前遺跡-萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ-』  
（財）千葉県文化財センター（1994年）『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他-東葉高速鉄道埋蔵文化財調査報告書-』  
（財）千葉県文化財センター（1997年）『千葉県埋蔵文化財分布地図（1）-東葛飾・印旛地区（改訂版）-』  
八千代市郷土歴史研究会（2001年）『ふるさと再発見 八千代の道しるべ』

第15表 八千代市内における轆の羽口出土遺跡

No	遺跡名	羽口点数	文献
1	間見穴遺跡	2	千葉県文化財センター2004年
2	向境遺跡	13	八千代市遺跡調査会2004年 c
3	上谷遺跡	6	八千代市遺跡調査会2003年,2004年 b, 2004年 c, 2005年 b
4	権現後遺跡	1	千葉県文化財センター1984年
5	井戸向遺跡	2	千葉県文化財センター1987年
6	白幡前遺跡	1	c 地点
7	浅間内遺跡	1	市教委2007年 b
8	村上込の内遺跡	2	千葉県都市公社1975年
9	大和田新田芝山遺跡	2	千葉県文化財センター1990年

第16表 八千代市内における貝類出土古代遺跡

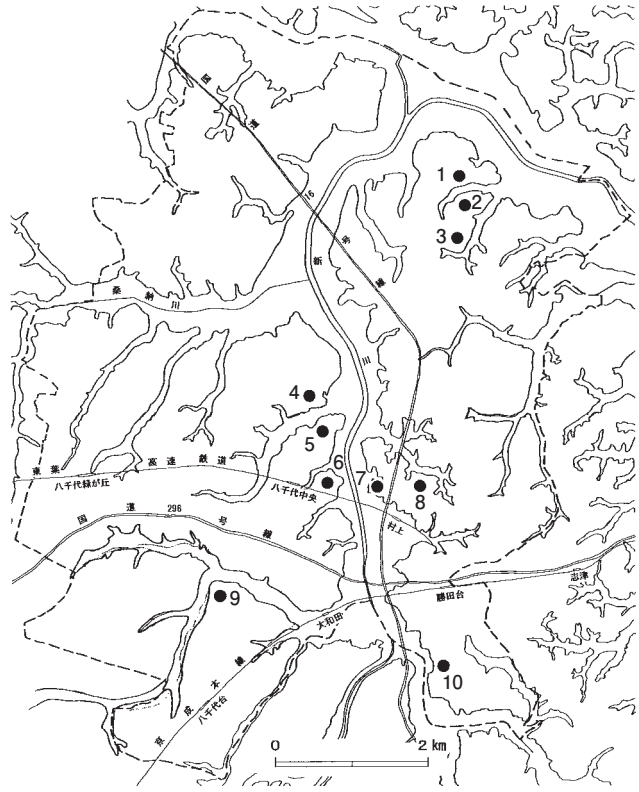
No	遺跡名	遺構No	遺構種類	貝種	出土状況等	時期等	文献
1	境堀遺跡	3-001	住居跡	不明	覆土を掘削して投棄	奈良・平安時代	八千代市遺跡調査会2005年 a
2	栗谷遺跡	A179	住居跡	不明		奈良・平安時代	八千代市遺跡調査会2004年 a
3	上谷遺跡	A088	住居跡	ハマグリ, シオフキ, ダンベイキサゴなど	覆土を掘削して投棄	平安時代	八千代市遺跡調査会2003年
		A116	住居跡	ハマグリ主体	人為的埋め戻し土を掘り込んで投棄	奈良・平安時代	八千代市遺跡調査会2004年 b
		A132	住居跡	ハマグリ等	混貝土層		八千代市遺跡調査会2004年 b
		A196	住居跡	アサリなど		奈良時代	八千代市遺跡調査会2004年 d
4	権現後遺跡	A202 a	住居跡	巻貝の芯	覆土下層	奈良時代	八千代市遺跡調査会2004年 d
		D005	住居跡	不明	カマド煙道の立上り部分	古墳時代後期	千葉県文化財センター1984年
		D014	住居跡	ハマグリ主体		平安時代	
		D025	住居跡	ハマグリ, シオフキ, カガミガイ, アサリ, ウミナなど	南西壁コーナーから投入	平安時代	
		D065	住居跡	不明		奈良・平安時代	
		4号	住居跡	ハマグリ主体, サルボウ, シオフキなど	上層~床面	古墳時代後期	市教委2007年 a
		1号	溝	アカガイ	覆土中層		
5	北海道遺跡	D041	住居跡	不明	カマド周辺	古墳時代後期	千葉県文化財センター1985年
		D095	住居跡	ハマグリ, シオフキなど	西側から投入	奈良時代	
		D096	住居跡	ハマグリ, シオフキ, マガキなど		奈良時代	
		D110	住居跡	ハマグリ, シオフキなど			
		D133	住居跡	不明			
		D083	住居跡	不明			
		D179	住居跡	不明	僅か	平安時代	千葉県文化財センター1991年
6	白幡前遺跡	D185	住居跡	シオフキ, ハマグリ, アサリ		平安時代	
		P168	井戸状土坑	ハマグリ, シオフキ, カガミガイ		平安時代	
		D152	住居跡	マガキ	床面から0.2m上位		
		D156	住居跡	シオフキ, ハマグリ	床面に近い	奈良時代	
		D165	住居跡	不明	床面に近い	平安時代	
		D167	住居跡	ハマグリ, シオフキ, アサリ			
		D168	住居跡	ハマグリ, シオフキなど	柱穴の柱を抜き取った跡に貝を詰込む	平安時代	
		P129	土坑	ハマグリなど	6・7層(下層)		
		P138	井戸状土坑	ハマグリ, シオフキ, イボキサゴ, マツカサガイ, ウミナ, アサリなど	多量		
		D136	住居跡	ハマグリ, アサリ, シオフキ	僅か	平安時代	
		D140	住居跡	ハマグリ, シオフキ, アサリなど		奈良時代	
		D258	住居跡	不明	住居中央とカマド上面		
		D260	住居跡	不明	南西コーナー中心		
		D125	住居跡	シオフキ主体	僅か	平安時代	
		D067	住居跡	ハマグリ, イボキサゴ, シオフキなど	東から, 住居廃絶後早い段階		
		D004	住居跡	ハマグリ, ウミナ, シオフキなど	9層	奈良時代	
		D005	住居跡	ハマグリ, シオフキ, アサリなど	床面及び床面近く	平安時代	
		D227	住居跡	ハマグリ, シオフキなど	カマドに覆いかぶさるように廃棄		
		2 M	溝	イボキサゴ, ハマグリ, シオフキなど	覆土を掘削して投棄	奈良時代	c 地点
		7	浅間内遺跡	P397	ビット	ハマグリ	報告書では縄文時代としているが, 古代と考えられる
8	村上込の内遺跡	016	円形土坑	シオフキ, ハマグリなど			千葉県都市公社1975年
		117	住居跡	ハマグリ, シオフキ, アサリなど		奈良時代	
		137	住居跡	ハマグリ, シオフキなど		奈良・平安時代	
		022	住居跡	シオフキ, ハマグリなど		平安時代	
9	高津新山遺跡	第03号	住居跡	ハマグリなど			市教委1982年・1983年 a・1984年
		土坑	土坑				八千代市遺跡調査会2007年 b
10	勝田大作遺跡	05号	円形土坑	ハマグリ, シオフキ, ウミナなど			
		08号	円形土坑			古墳時代後期	

第17表 八千代市内における馬骨出土遺跡

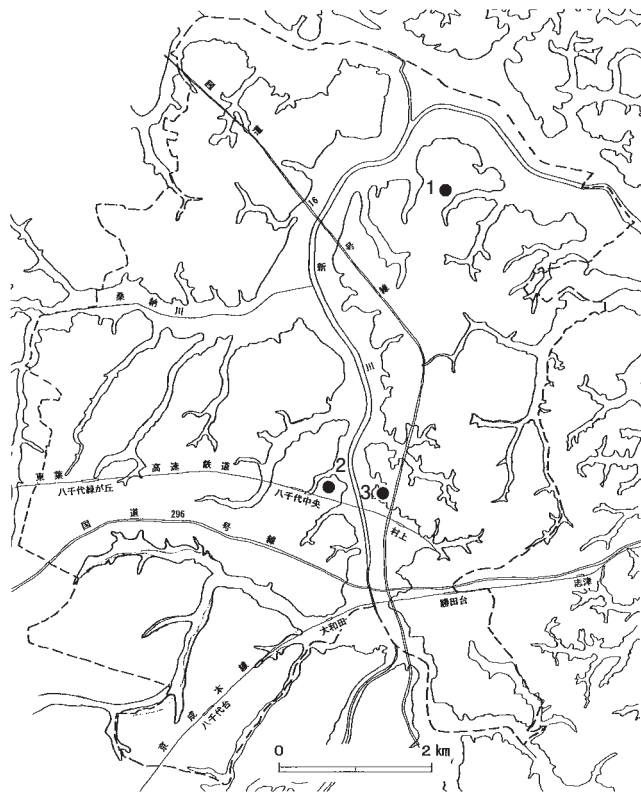
No	遺跡名	遺構No	遺構種類	出土状況等	時期等	文献
1	向境遺跡	A048	住居跡	馬歯1点	奈良時代	八千代市遺跡調査会2004年 c
2	白幡前遺跡	P168	井戸状土坑	底面, 人骨伴う	平安時代	千葉県文化財センター1991年
		1 M	溝	歯骨44箇所散在, 顎骨・肢骨1箇所	近世か	c 地点
3	浅間内遺跡	D72-P14	土坑	顎骨・歯骨等		市教委2007年 b
		M34	溝	溝底のビット状掘り込みから上下顎骨, 歯骨		八千代市遺跡調査会2007年 a



第27図 轆の羽口出土遺跡 (第15表)



第28図 貝類出土古代遺跡 (第16表)



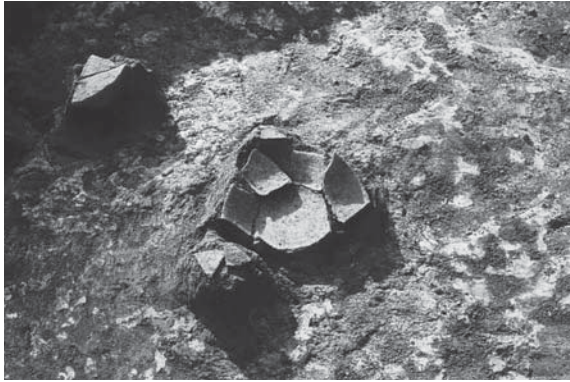
第29図 馬骨出土遺跡 (第17表)

八千代市教育委員会（2003年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』  
八千代市遺跡調査会（2003年）『千葉県八千代市上谷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』第2分冊  
八千代市遺跡調査会（2004年 a）『千葉県八千代市栗谷遺跡 役山東遺跡 雷南遺跡 雷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』第3分冊  
八千代市遺跡調査会（2004年 b）『千葉県八千代市上谷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』第3分冊  
八千代市遺跡調査会（2004年 c）『千葉県八千代市向境遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』  
八千代市遺跡調査会（2004年 d）『千葉県八千代市上谷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』第4分冊  
（財）千葉県文化財センター（2004年）『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書3 - 八千代市間見穴遺跡 -』  
八千代市遺跡調査会（2005年 a）『千葉県八千代市境堀遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』  
八千代市遺跡調査会（2005年 b）『千葉県八千代市上谷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』第5分冊  
八千代市教育委員会（2007年 a）『千葉県八千代市権現後遺跡 - 公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』  
八千代市教育委員会（2007年 b）『千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』  
八千代市遺跡調査会（2007年 a）『千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡 八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』  
八千代市遺跡調査会（2007年 b）『千葉県八千代市勝田大作遺跡 - 埋蔵文化財発掘調査報告書 -』  
笹生衛（2008年）「律令制の時代」, 『八千代市の歴史 通史編 上』  
八千代市教育委員会（2009年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』



# 写 真 图 版

# 図版 1



(1) 1 D住居跡遺物 1 出土状況



(2) 1 D住居跡床面検出状況



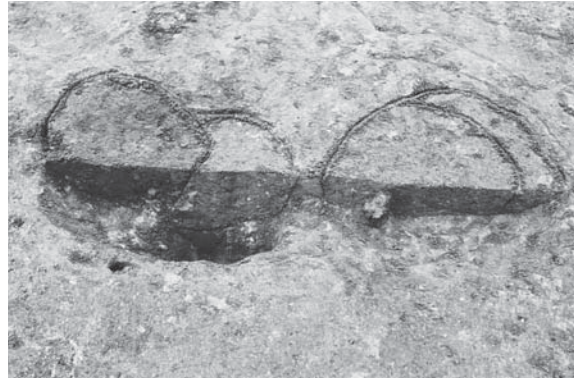
(3) 1 D住居跡カマド内遺物出土状況



(4) 1 D住居跡完掘状況



(5) 2 D住居跡鞆の羽口出土状況



(6) 2 D住居跡 P 2・P 3 土層断面



(7) 2 D住居跡土層断面



(8) 2 D住居跡完掘状況

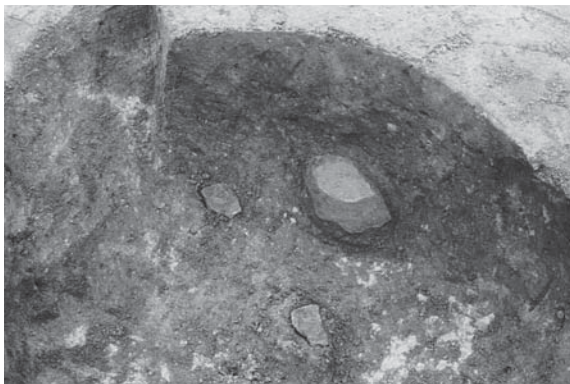
図版2



(1) 3D住居跡遺物1出土状況



(2) 3D住居跡完掘状況



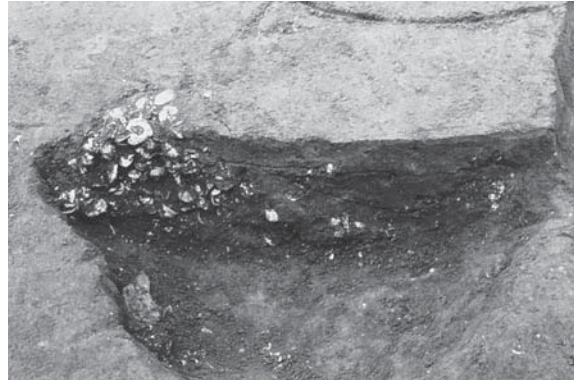
(3) 4D住居跡遺物1など出土状況



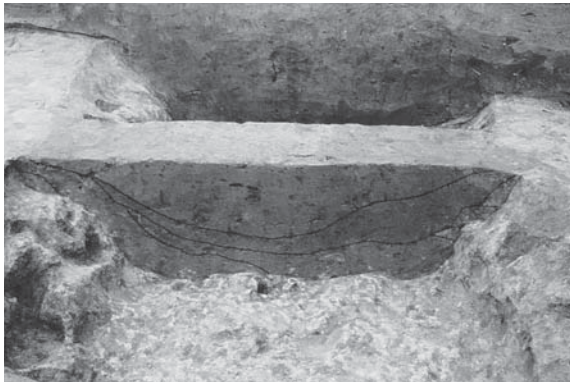
(4) 4D住居跡カマド完掘状況



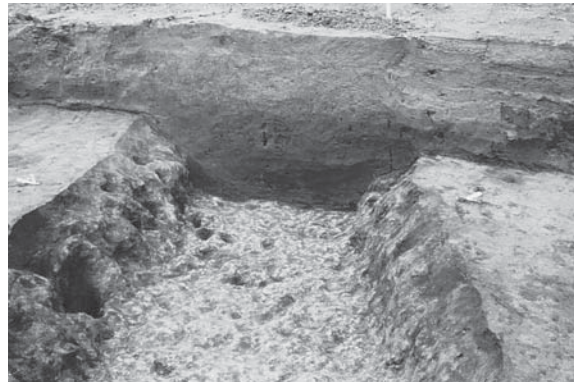
(5) 2M溝跡貝層検出状況



(6) 2M溝跡貝層断面



(7) 2M溝跡土層断面



(8) 2M溝跡完掘状況

图版 3



(1) 2 P 土坑完掘状况



(2) 5 P 土坑土层断面



(3) 4 P 土坑土层断面



(4) 4 P 土坑完掘状况



(5) 6 P 土坑土层断面



(6) 6 P 土坑完掘状况



(7) 7 P 土坑土层断面



(8) 7 P 土坑完掘状况

図版4



(1) 13P土坑土層断面



(2) 13P土坑完掘状況



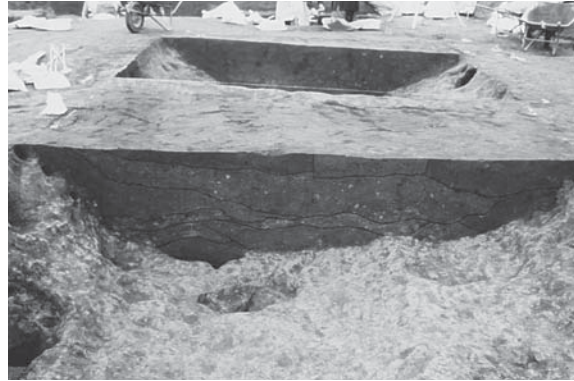
(3) 1M溝跡検出状況



(4) 1M溝跡馬骨出土状況



(5) 1M溝跡P1内馬骨出土状況



(6) 1M溝跡土層断面

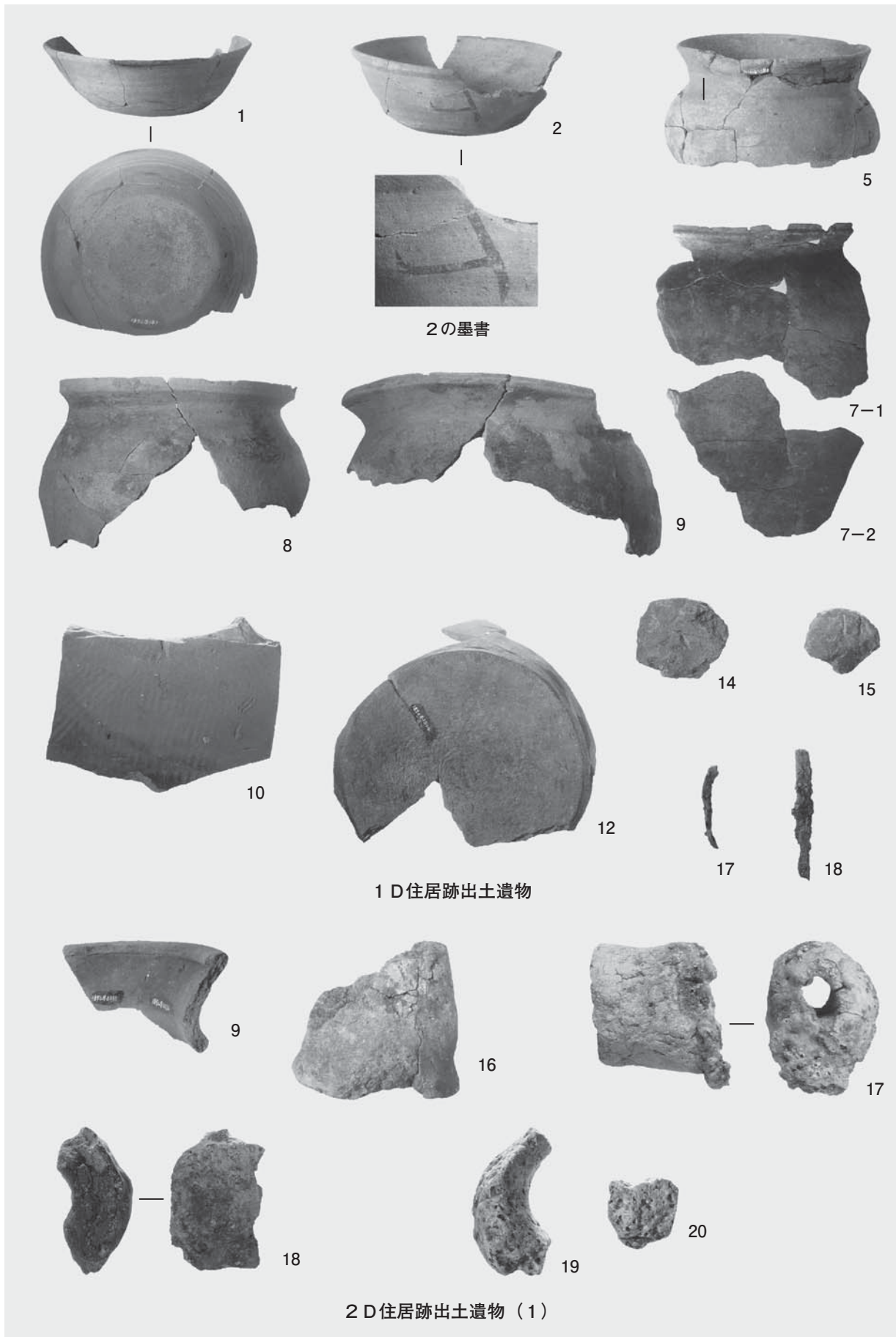


(7) 1M溝跡完掘状況(南東端)



(8) 調査終了状況

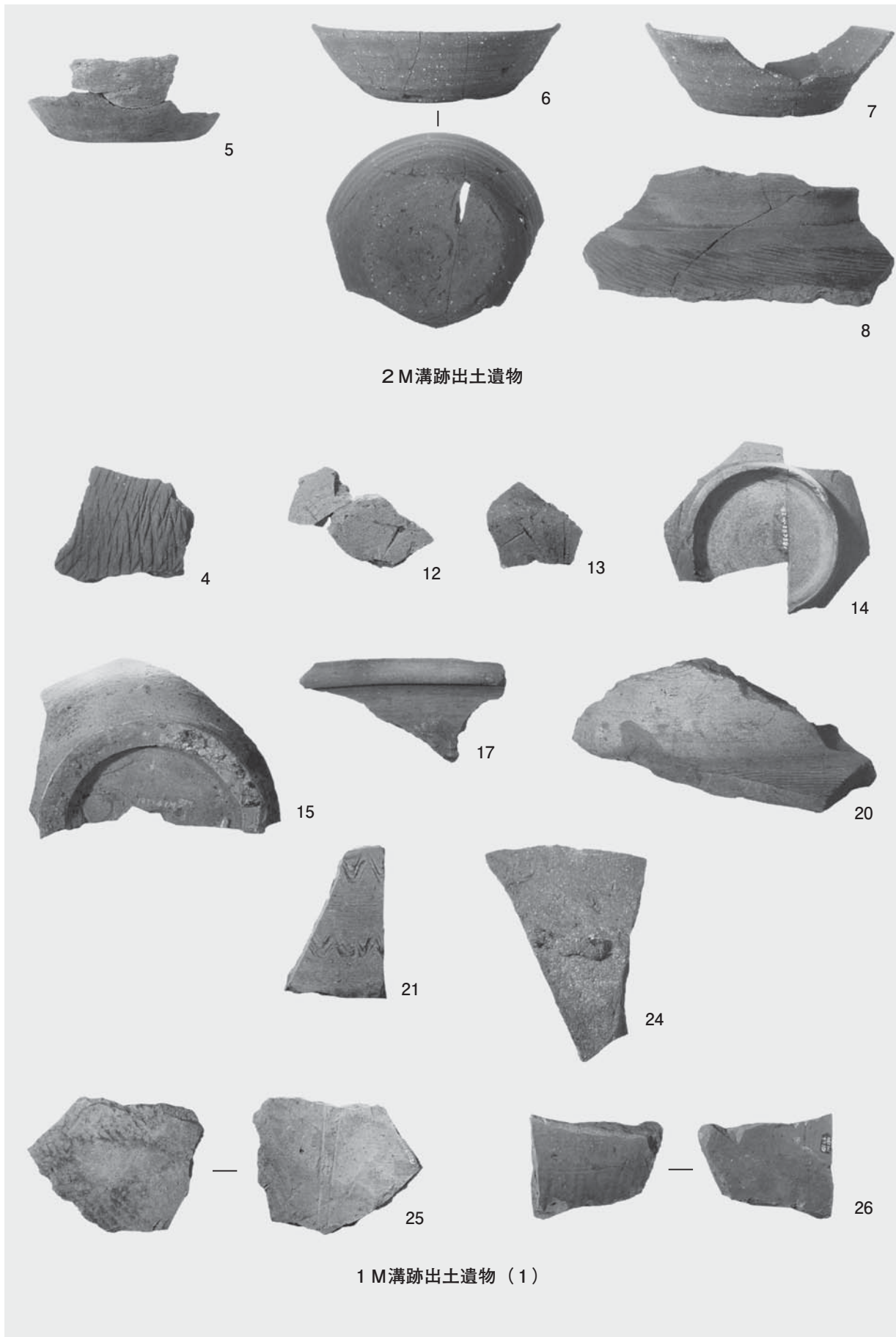
図版5



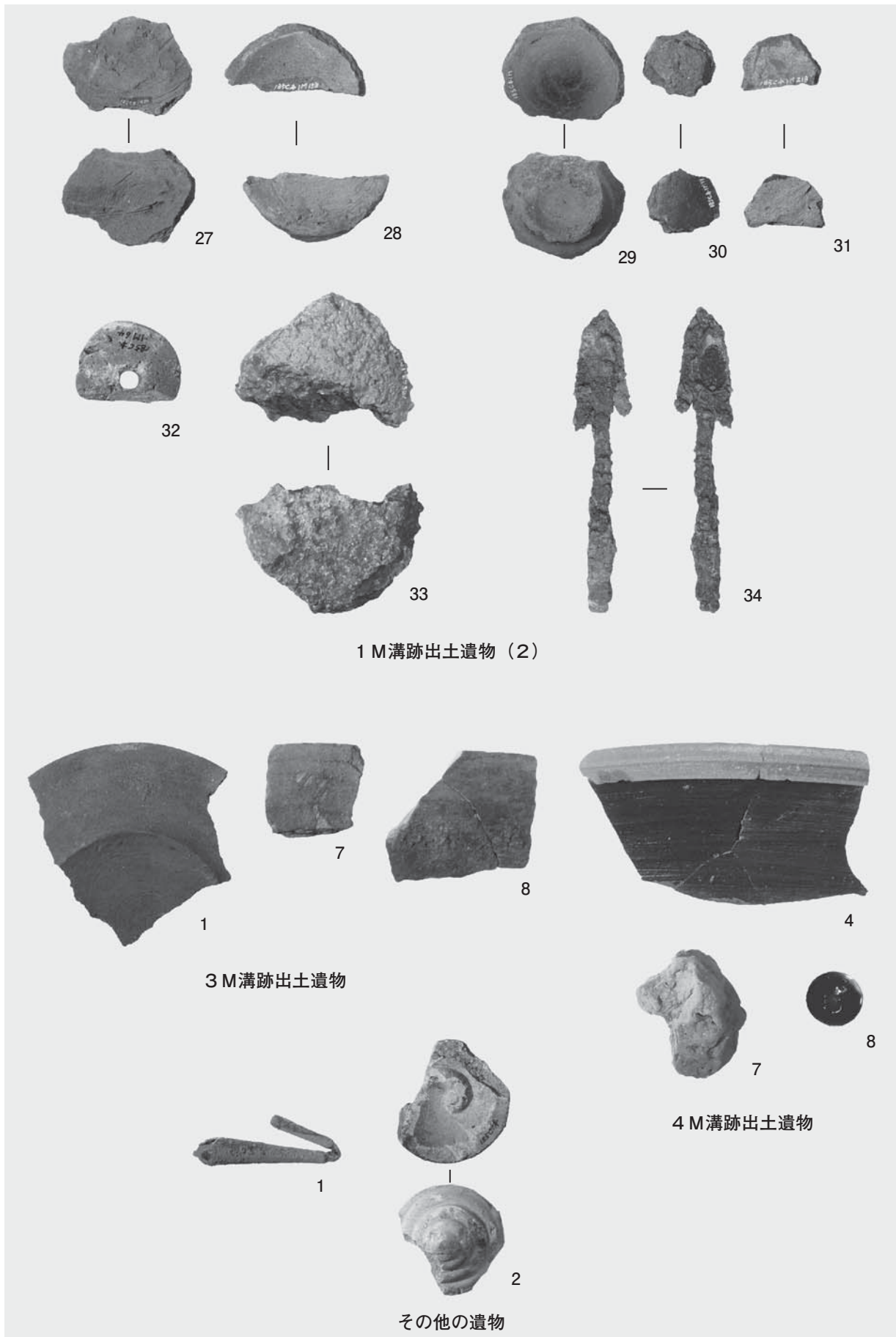
番号は実測図の番号と一致 (以下同じ)



图版 7







# 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし しらはたまえいせきしーちてん
書名	千葉県八千代市白幡前遺跡c地点
副書名	共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編集者名	常松成人
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 ☎047(483)1151 代表
発行年月日	2009年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しらはたまえ 白幡前遺跡 しーちてん c地点	やちよしかやだあぎ 八千代市萱田字 うえのだい 上ノ台2083ほか	12221	185	35度 43分 26秒	140度 6分 41秒	20080306 ～ 20080331	311	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白幡前遺跡c地点	集落跡	奈良・平安時代  近世 近・現代	竪穴住居跡4軒, 土坑 12基, 溝跡1条  溝跡1条, 土坑1基 溝跡2条	奈良・平安時代土師器, 須恵器, 鞆羽口, 土器片円盤, 支脚, 釘, 鉄鏃, 鉄滓, 貝 陶器, 馬骨	

要約	<p>本市における代表的古代集落遺跡である白幡前遺跡の一面の様相が明らかとなった。9世紀の竪穴住居跡, 9世紀第4四半期～10世紀第1四半期に属すると考えられる鍛冶遺構を捉えることができた。また古代の溝跡から貝類が出土した。</p> <p>近世と考えられる溝跡からは, 奈良・平安時代の遺物のほか馬骨(主に歯)が出土した。</p>
----	---